

2012 年度 修士論文

アマチュアゴルファーの最高峰
スクラッチプレーヤー（ハンディキャップ0）に関する研究

The Top of the Amateur Golf Players
Research on the Japanese Men Scratch Players

早稲田大学大学院スポーツ科学研究科
トップスポーツマネジメントコース

5012A316－3

田中 耕介
Kosuke Tanaka

研究指導教員：平田竹男 教授

目次

第1章 序論.....	5
第1節 背景.....	5
第1項 男子ゴルファーの人数および年齢分布.....	7
第2項 アマチュア競技ゴルフの概要.....	9
第2節 先行研究.....	12
第3節 研究目的.....	12
第2章 研究手法.....	13
第1節 アンケートおよびインタビュー調査.....	14
第1項 直接配布式アンケート調査.....	14
第2項 インターネットを用いたアンケート調査.....	14
第3項 インタビュー調査.....	14
第2節 ゴルフの技量に関する調査.....	15
第1項 ホール毎の分析.....	15
第2項 ラウンド結果から得られるデータの分析.....	15
第3章 アンケートおよびインタビュー調査結果.....	16
第1節 アンケート調査結果.....	17
第1項 アンケート回答者の属性および基本技量.....	17
第2項 ラウンド数と練習量および費用.....	18
第3項 得意クラブおよび競技の経験と魅力.....	19
第4項 シニアプロへの興味.....	20
第5項 ゴルフに対しての意識.....	21
第6項 プロから見たアマチュア選手.....	22
第2節 インタビュー調査結果.....	23
第1項 スクラッチプレーヤーのパーソナルデータ・生活環境.....	23
第2項 練習場について.....	26
第3項 ラウンド前後について.....	27
第4章 ゴルフの技量に関する調査.....	28
第1節 ホール毎の分析.....	28
第1項 全体のスコアリング分析.....	28
第2項 ホール別のスコアリング分析.....	30
第3項 ラウンド結果から得られるデータの分析.....	32
第2節 重回帰分析.....	33
第1項 スクラッチプレーヤーの重回帰分析.....	33
第2項 レギュラーツアープロゴルファーの重回帰分析.....	34
第3項 シニアツアープロゴルファーの重回帰分析.....	35

第5章 考察.....	36
第1節 生活環境.....	36
第2節 ゴルフに対する考え方・流儀.....	37
第3節 ラウンド環境.....	38
第4節 練習環境.....	39
第5節 ゴルフの技量について.....	40
第6章 結論.....	41
謝辞	42
参考文献.....	43
付録 アンケート調査用紙.....	44
参考図	47

図表目次

図 1-1	J G A男子ハンディキャップ別人数分布	7
図 1-2	ハンディキャップを所持している男子ゴルファーの年齢分布	8
図 1-3	競技ゴルファー（HC 9以下）の年齢分布	8
図 1-4	スクラッチプレーヤーの年齢分布	8
図 1-5	本選出場者の年齢別分布	10
図 1-6	男子アマチュア競技の参加者人数推移	11
図 3-1	アンケート調査対象分布	16
表 1-1	カテゴリー別人数分布	7
表 1-2	アマチュア競技の参加人数と料金	9
表 1-3	J G A主催男子アマチュア競技の参加人数と年齢	10
表 1-4	男子アマチュア競技の参加者人数推移	11
表 2-1	カテゴリー分類	13
表 3-1	属性および基本技量	17
表 3-2	ラウンド数と練習量および費用	18
表 3-3	得意クラブおよび競技の経験と魅力	19
表 3-4	シニアプロ競技への興味	20
表 3-5	シニアプロへの興味と予選参加費用	20
表 3-6	ゴルフに対しての意識	21
表 3-7	プロから見たアマチュア選手	22
表 3-8	スクラッチプレーヤーのアンケートデータ	23
表 3-9	スクラッチプレーヤーのパーソナルデータ	24
表 3-10	練習場での使用クラブ	26
表 3-11	パター練習量	26
表 4-1	スコアリング	29
表 4-2	上位と下位の差による傾き	29
表 4-3	ホール別のスコアリング	30
表 4-4	ホール別の上位と下位の差による傾き	31
表 4-5	ラウンド結果から得られるデータ	32
表 4-6	スクラッチプレーヤーの重回帰分析	33
表 4-7	レギュラーツアーの重回帰分析	34
表 4-8	シニアツアーの重回帰分析	35

第1章 序論

第1節 背景

日本では様々な場面で2015年問題が取り沙汰されているが、ゴルフ界も例外ではなく問題を抱えている。2015年問題とは、第一次ベビーブームで誕生し日本経済を引っ張ってきた団塊の世代が、2015年には65歳以上になることでいろいろな問題が起きるというものである。日本ゴルフ協会は、2015年、団塊の世代が退職後にゴルフ離れをするのではないかと危惧している。その理由として、所得減、体力の低下などもあるが、社用としてゴルフをしていた人達が、趣味としてはゴルフを続けられない可能性が高いとされている。また、会員制ゴルフ場においても法人メンバーとしてクラブライフを満喫していた人が、退職後個人メンバーにならずにクラブ会員を辞してしまう問題に直面している。そのため、日本ゴルフ界全体でシニア層の引き留め策を講じなければならないと考えられている。具体的には、ゴルフが生涯スポーツとして健康にどれだけ有効かをアピールすることや競技ゴルフの楽しさを味わうことで趣味として継続させる等の策が講じられている。

現在、日本のゴルファー人口は概ね1,000万人（総務省統計局調べ）に達する。しかし、JGAオフィシャルハンディキャップ所持者は15万人でゴルファー全体のわずか1.5%である。

ここで、日本のゴルフ界を代表する団体である日本ゴルフ協会（JGA：JAPAN GOLF ASSOCIATION）について説明をする。JGAとは1924（大正13）年10月に創設された日本ゴルフ界を代表する団体である。日本ゴルフ界の健全な発展と普及を図り、もって国民体育の向上、社会・文化の発展並びに国際親善に寄与することを目的としている。創設以来、アマチュアリズムに則したゴルフ精神の正しい遵守、ナショナルハンディキャップ制度の実施、公式競技の開催、ゴルフ・ルールとエチケットマナーの正しい普及などに努め、ゴルフの健全な発展と普及を図り社会に貢献している。

JGAは2014年に新しいハンディキャップ（HC）制度を導入する。ゴルファーの技量とコースの難易度を考慮した計算方法に変更し、より公平性および統一性を高めるためのものである。このハンディキャップインデックスを普及させることで、アンダーハンディキャップ競技を充実させ、技量の差はあっても老若男女競技ゴルフが楽しめる環境を整備していくことが肝要だと考えられている。さらに、健康志向の高まりと、誰でも楽しめるスポーツへの理解の広がりに加え、アマチュア競技の拡大をすることで、ゴルフ人口が増加すると考えている。また、2016年のリオデジャネイロ五輪からオリンピック正式種目に復活することは、ゴルフが世界6大陸で6,000万人（英国の調査機関 Sports Marketing Surveys 調べ）を超える人々に愛されるスポーツとして普及定着した証左であるとしている。

プロゴルフ界に目を転じると、2013年のレギュラーツアーは2012年に比べて25試合から3試合（キャノンオープン・とうとうみ浜松オープン・サンクロレクラシック）が減る予定である。パナソニックオープンも2013年の試合を最後に終了することが発表された。2013年は、平和主催の試合が加わり、ワンアジアツアーのインドネシアオープン・タイオープンに共催することで、合計3試合増え、3減3増となる。もはや日本国内のみのツアーでは成立せずグローバル化せざるを得ない状況である。

アマチュアゴルファーの上達プロセスは、社用ゴルファーから趣味としてのゴルファーになる。次に、ハンディキャップを取得し、アベレージプレーヤー（ハンディキャップ18以下）になる。そして、競技ゴルフを本格的に始め、シングルプレーヤー（ハンディキャップ9）を目指すことが多い。シングルプレーヤーはJGA男子ハンディキャップ所持者129,926人の内の18,724人（全体の14.4%）である。その上はハンディ5以下プレーヤー、そして、最終的にはアマチュアゴルファーの最高峰であるスクラッチプレーヤー（ハンディキャップ0）を目指すことが多いのである。その後は、アマチュアゴルファーとしてクラブライフやアマチュア競技を満喫する人もいればプロゴルファーを目指してチャレンジする人もいるのである。

筆者はスクラッチプレーヤーとして、今日までの10年間、関東ゴルフ連盟主催の関東アマチュアゴルフ選手権・関東ミッドアマチュアゴルフ選手権・関東月例競技（ハンディキャップ3より上手い選手が毎月集まり、難関コースでタフなセッティングのもと実施される競技会）に参加し続けている。それと並行してアマチュア競技ゴルフおよびアマチュアゴルファー全体に興味を持つようになった。特にプロゴルファーの実力を備えていながらプロゴルファーにならないスクラッチプレーヤーに興味をもった。プロゴルファーやゴルフトーナメントに関する研究やジュニア育成、スイング理論、医学的見地からみたゴルフ、ゴルフ史に関するアマチュアゴルファーを含む研究はあるものの、アマチュアゴルファーをスクラッチプレーヤーに絞り、その現状を明らかにした研究は存在しない。

第1項 男子ゴルファーの人数および年齢分布

ゴルファーのカテゴリー別の人数分布を表 1-1 に示す。また、JGA男子ハンディキャップ別人数分布を図 1-1 に示す。スクラッチプレーヤーの男子は全国で460人、ハンディ5以下プレーヤー（ハンディキャップ1から5）は5,978人、シングルプレーヤー（ハンディキャップ6から9）は12,286人である。その中でもスクラッチプレーヤーは全体の0.4%となっており250人に1人しかない。

表 1-1 カテゴリー別人数分布

カテゴリー名		ハンディ キャップ	人数	アマチュア 割合	平均年齢
プロゴルファー		—	5,069	—	42.0
アマチュア	スクラッチプレーヤー	～0	460	0.4%	40.9
	ハンディ5以下プレーヤー	1～5	5,978	4.6%	49.3
	シングルプレーヤー	6～9	12,286	9.5%	54.7
	アベレージプレーヤー	10～18	36,515	28.1%	58.3
	その他	19～	74,687	57.4%	59.5

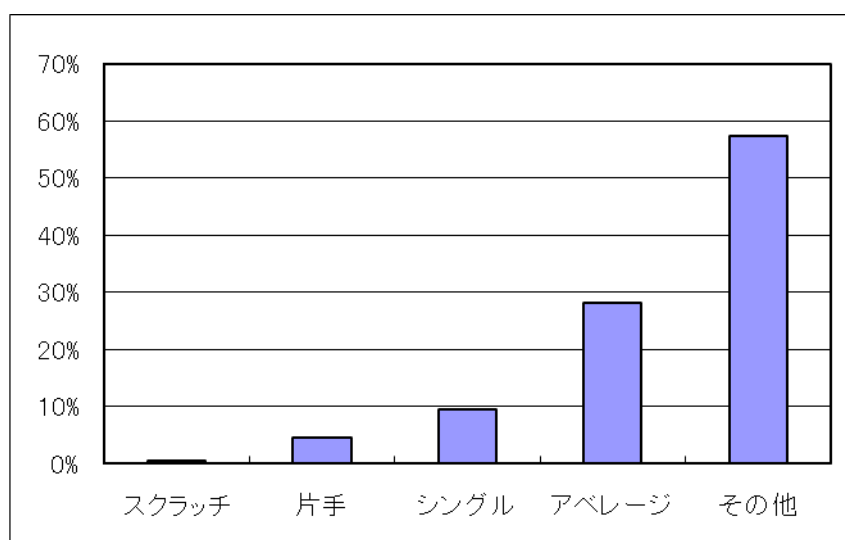


図 1-1 JGA男子ハンディキャップ別人数分布

次に2012年JGAハンディキャップを所持している男子ゴルファーの年齢分布を図 1-2 に示す。60歳代のプレーヤーが一番多く平均年齢は59.3歳である。さらに、ハンディキャップ9より上級者を競技ゴルファーと定義して競技ゴルファーの年齢分布を図 1-3 に示す。50歳代のプレーヤーが一番多く、平均年齢は52.6歳である。スクラッチプレーヤーの年齢分布を図 1-4 に示す。40代の選手が一番多く、30歳未満7%、30歳代22%、40歳代37%、50歳代28%、60歳代6%であり、平均年齢は40.9歳である。

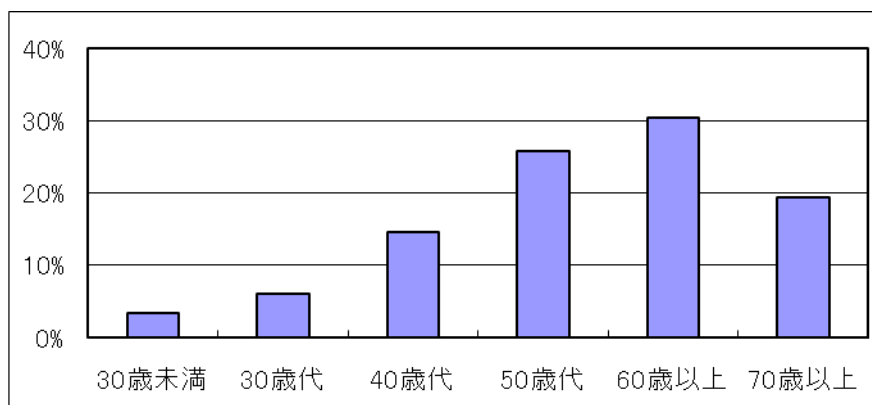


図 1-2 ハンディキャップを所持している男子ゴルファーの年齢分布

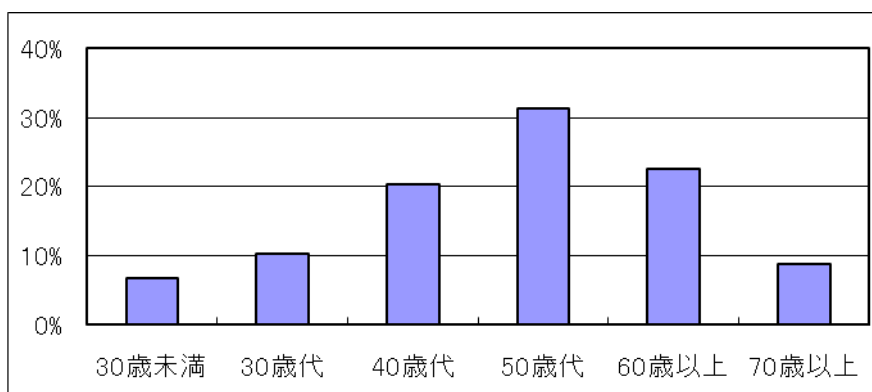


図 1-3 競技ゴルファー（HC 9 以下）の年齢分布

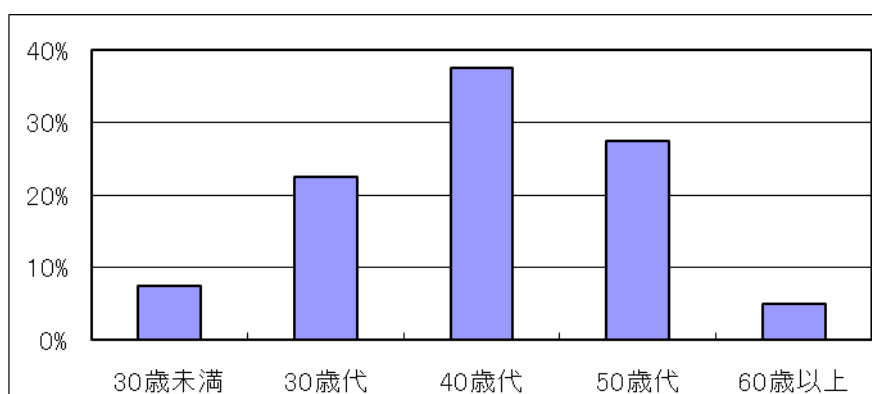


図 1-4 スクラッチプレーヤーの年齢分布

第2項 アマチュア競技ゴルフの概要

アマチュアのゴルフ競技には様々なものがある。主な社会人男子のアマチュア競技の参加人数と料金を表 1-2 に示す。メジャーな試合としては年間約15試合行われており、参加するには規定の年齢やハンディキャップに加え参加料も必要である。安いもので6,300円、高いもので21,000円である。各クラブのクラブチャンピオンのみが出場し日本一を決定する大会などもある。

表 1-2 アマチュア競技の参加人数と料金

競技名	出場制限	予選参加人数	本選出場人数	参加料（円）
日本アマチュアゴルフ選手権	制限なし	8,030	40 (他学生98)	21,000
日本ミッドアマチュアゴルフ選手権	30歳以上	5,271	132	21,000
日本シニアゴルフ選手権	55歳以上	4,497	126	21,000
日本ミッドシニアゴルフ選手権	65歳以上	1,652	108	21,000
日本グランドシニアゴルフ選手権	70歳以上	1,605	108	21,000
報知アマゴルフ選手権	クラブ チャンピオン	50,000	120	15,000
日本社会人ゴルフ選手権	社会人	2,800	142	12,000
日本オープンゴルフ選手権	HC3以下	532	125	21,000
日本シニアオープンゴルフ選手権	50歳以上	476	125	21,000
パブリック選手権	HC18以下	9,000	156	6,300
パブリックミッド選手権	30歳以上	4,500	180	6,300
パブリックシニア選手権	55歳以上	3,000	160	6,300
都道府県アマチュアゴルフ選手権	HC18以下	35,000	5,640	21,000
日刊アマチュアゴルフ選手権	HC9以下	3,200	154	15,000

２０１２年ＪＧＡ主催のアマチュア競技は、学生および女子向けの競技を除くと５つである。日本ゴルフ協会、地方ゴルフ連盟、各都道府県ゴルフ連盟のホームページおよび担当者への電話ヒアリングによると２０１２年のアマチュア競技参加人数と年齢は表 １-３の通りである。また、本選出場者５１４名（学生除く）の年齢別分布図を図 １-５に示す。日本ゴルフ協会主催のアマチュア競技予選参加者の平均年齢（日本アマチュアゴルフ選手権は学生が参加しているため社会人と学生の割合を考慮して算出）は５２．５歳である。

表 １-３ ＪＧＡ主催男子アマチュア競技の参加人数と年齢

競技名	年齢制限	予選参加人数	本選人数	本選平均年齢
日本アマチュアゴルフ選手権	制限なし	８，０３０	４０ (他学生９８)	３７．８ (学生除く)
日本ミッドアマチュアゴルフ選手権	３０歳以上	４，７２６	１３２	４２．４
日本シニアゴルフ選手権	５５歳以上	４，４９７	１２６	５９．７
日本ミッドシニアゴルフ選手権	６５歳以上	１，６５２	１０８	６６．２
日本グランドシニアゴルフ選手権	７０歳以上	１，６０５	１０８	７２．３

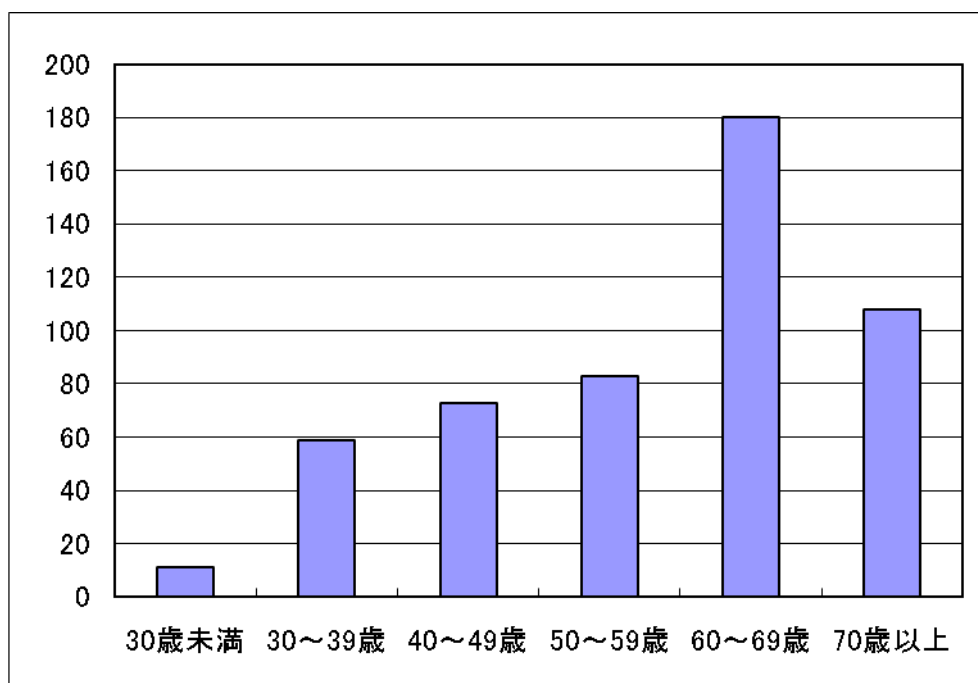


図 １-５ 本選出場者の年齢別分布

JGA主催の男子アマチュア競技において2005年から2012年までの予選参加者人数の推移を表1-4および図1-6に示す。2005年から2012年の推移として日本アマチュアゴルフ選手権では1.1倍（717人増）、日本シニア、日本ミッドシニア、日本グランドシニアではそれぞれ30%以上増加しており、55歳以上のシニア層の競技参加者は合計では約2,000人増えており近年増加傾向にある。日本ミッドアマの参加人数は急増しているが、北海道や東北の地区予選は2006年から、中部や九州の地区予選は2011年から始まったことによる影響である。それまでは55歳未満の選手は全員日本アマ予選しか出場出来なかったが、日本ミッドアマというクラスが各地区で出来たことで30歳から54歳の選手が積極的に予選に参加している。

表 1-4 男子アマチュア競技の参加者人数推移

	日本アマ	日本ミッドアマ	日本シニア	日本ミッドシニア	日本グランドシニア
2005	7,313	1,201	3,385	1,187	1,108
2006	7,643	2,028	3,489	1,252	1,193
2007	7,551	2,355	3,714	1,301	1,263
2008	7,668	2,739	3,735	1,430	1,318
2009	7,647	3,010	3,737	1,447	1,421
2010	7,771	3,045	3,925	1,452	1,425
2011	7,607	4,710	4,464	1,538	1,516
2012	8,030	4,726	4,497	1,652	1,605
増減率	110%	394%	133%	139%	145%
増減人数	717	3,525	1,112	465	497

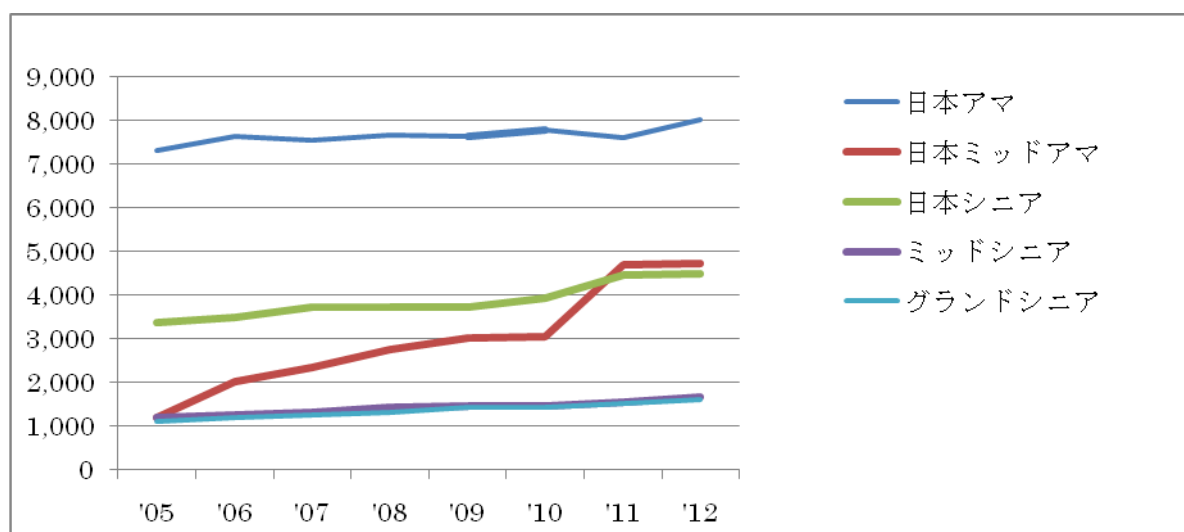


図 1-6 男子アマチュア競技の参加者人数推移

第2節 先行研究

プロゴルファーやゴルフトーナメントに関する研究としては、地域・地区ゴルフトーナメントを軸とした日本男子プロゴルフ界活性化に関する小山の研究（2008）、日本男子プロゴルフトーナメントツアーの価値向上要因に関する丸山の研究（2009）、アジア地域との連携による日本男子ゴルフツアーの発展策に関する角原の研究（2010）や金子の日本における新たなゴルフトーナメントモデルの提案（2011）など数多く存在する。

外国人プレーヤーやジュニア育成に関する研究としては、韓国におけるプロゴルファーの強化・育成に関する井上の研究（2010）、ゴルフ練習場およびゴルフ場の社会的責任・役割と経営戦略に着目し、ジュニア育成の責任があることを述べている片山らの研究（2004）などが存在する。

ゴルフスイング理論に関する研究としては、ゴルフスイングにおけるグリップ力とスキルに関する西沢の研究（1998）、相対性スイング原理（ゴルフスイングの基礎）に関する常住の研究（2000）などがある。

医学的見地からみたゴルフの研究としては、健康と技術向上についての一般アマチュアゴルファーの実態調査に関する山本の研究（1995）や高齢者の生活スポーツとしてのゴルフに関する山本の研究（1988）などがある。

ゴルフ史に関する研究としては、「東京ゴルフ倶楽部」の設立と展開に関する坂本の研究（2011）などがある。

論文以外の書籍としては、ゴルフスイング理論やスコアアップの秘訣、シングルになるための方法等を記したものが数多く存在している。

しかし、アマチュアゴルファーをスクラッチプレーヤーに絞り、その現状を明らかにした研究は存在しない。

第3節 研究目的

2014年から全国全コースの統一ハンディキャップ制の導入、シニアのゴルフ離れの2015年問題、2016年リオデジャネイロ五輪からゴルフが正式種目に復活するなど日本ゴルフ界にとって変革を迎える。

アマチュアゴルファーの上達プロセスは、社用ゴルファーから趣味ゴルファーになり、ハンディキャップを取得し、アベレージプレーヤーになり、競技ゴルフを本格的に始め、シングルプレーヤーになり、ハンディキャップ5以下プレーヤーになり、スクラッチプレーヤーになるのである。それぞれのレベルのゴルファーの実態を把握することでレベルごとのマイルストーンを示し、次のステージにステップアップするための指標のひとつとなればよいと考えた。

そこで、アマチュアゴルファーの最高峰であるスクラッチプレーヤーの生活環境、ゴルフに対する考え方・流儀、ラウンド環境、練習環境、ゴルフの技量を論理的・科学的に明らかにすることを研究目的とした。

第2章 研究方法

スクラッチプレーヤーを科学的、理論的に分析するため、比較対象として様々なレベルのプレーヤーについても研究する。本研究では、分かりやすくするためゴルファーを表 2-1 のように5つに分類する。以後、それぞれのカテゴリーのプレーヤーについて表 2-1 の略称で表す。

ここで、現在のハンディキャップの概要を説明する。ハンディキャップとはゴルファーの技量を示す尺度である。ハンディキャップ9以下のプレーヤーをシングルプレーヤーと呼び、ハンディキャップ5以下のプレーヤーをハンディ5以下プレーヤーと呼び、ハンディキャップがゼロのプレーヤーはスクラッチプレーヤーと呼ばれる。現在、日本ではJGAの規定に基づいて査定されたハンディキャップが唯一のオフィシャルハンディキャップである。JGAとは我が国ゴルフ界の健全な発展と普及を図り、もって国民体育の向上、社会・文化の発展並びに国際親善に寄与することを目的としている公益財団法人の組織である。具体的なハンディキャップ算出方法は、スコアカード毎に、ストロークコントロール（ハンディキャップに応じて1ホール毎の最大ストロークが決められている）されたスコアから各コースに定められているコースレーティング（男子トーナメント開催コースは難易度が高く、袖ヶ浦CC・相模原GC73.7、鷹の台CC73.6、武蔵CC笹井C73.3となっている）を引き、ディファレンシャルを算出する。10枚のディファレンシャルの内、数値の少ない5枚の平均値を算出する。平均値に0.96乗じ、小数点第2位を四捨五入した数値が正式なハンディキャップインデックスとなる。

表 2-1 カテゴリー分類

カテゴリーNo.	カテゴリー名	略称	ハンディキャップ	人数
1	プロゴルファー	プロ	-	5,069人
2	スクラッチプレーヤー	スクラッチ	～0	460人
3	ハンディ5以下プレーヤー	ハンディ5以下	1～5	5,978人
4	シングルプレーヤー	シングル	6～9	12,286人
5	アベレージプレーヤー	アベレージ	10～18	36,515人

第1節 アンケートおよびインタビュー調査

様々なゴルファーのゴルフの技量、練習量、意識などを調査するため、プロゴルファーを始め、スクラッチプレーヤーからアベレージゴルファーまで様々なハンディキャップのアマチュアゴルファーに対して、2種類の方法（質問用紙配布、WEB アンケート）を用いてアンケート調査を実施した。主なアンケート項目は回答者の属性、技量レベル、ラウンド数と練習量、ゴルフにかかる費用、プロ競技への興味、競技ゴルフに関する意識である。末尾に付録としてアンケート全容を掲載している。さらに詳細な意見を求めてインタビュー調査を実施した。

ここで、ゴルフラウンドの説明をする。18ホールのゴルフコースのパーは、72に設定されるのが一般的である。（パー5）が4つ、（パー4）が10、（パー3）が4つというのが標準的である。パー72に対して72打数の場合、イーブンパー(Even Par)という。パーより少なく71打数ならば1アンダー、70打数ならば2アンダー、以下同様になる。逆に73打数ならば1オーバーとなり以上も同様になる。

第1項 直接配布式アンケート調査

2012年10月25日から12月31日にかけて、関東ゴルフ連盟月例競技、神奈川県研修競技会、所属クラブ研修競技会（セントラルGC、カレドニアンGC、袖ヶ浦CC）、プロツアー（日本シニアオープンゴルフ選手権競技、富士フィルムシニアチャンピオンシップ、ATP ツアー、ハンダカップ）、その他会合にて、245名に対して質問用紙を配布してアンケート調査を実施した。本研究では、ハンディキャップに応じた練習量や意識の違いを主に分析で使用することから、それらの項目を回答したものを有効回答とした。その結果、有効回答数は計205枚となった。

第2項 インターネットを用いたアンケート調査

2012年11月18日から12月31日にかけて、e-mail やソーシャル・ネットワーキング・サービスを活用して呼びかけて実施した。具体的には、アンケート用のホームページを作製し、それぞれのアンケート回答項目を選択および記入することでデータベースにデータを取得する仕組みである。332名から回答を得たが、第1項と同様の有効回答判断基準により254名の回答を有効回答とした。

第3項 インタビュー調査

2012年10月25日から12月31日にかけて、スクラッチプレーヤー30人と各々のカテゴリー10人ずつ計70人に対して、直接、普段の練習内容、ラウンド時の練習内容、ゴルフに対する考え方、競技に対する考え方、目標をヒアリングすることで、各々のカテゴリーの意識差、練習の質の差を確認した。

第2節 ゴルフの技量に関する調査

スクラッチプレーヤーのゴルフの技量に関する調査を行うため、関東ゴルフ連盟主催で毎月行われている月例競技（以下、関東月例競技という。）に出場している各選手に焦点を当てて分析した。

関東月例競技は模範的アマチュアゴルファーの育成を目的としており、単に成績を競うだけでなく、競技を通じて、エチケット、マナー、ルールを研修し、技量を研鑽し、良き指導者としてのプレーヤーを目指している競技会である。参加資格は関東ゴルフ連盟加盟コースに所属しており、且つハンディキャップ3以下（3より上級者）の選手である。当該競技で取得した年間集計ポイントによる上位25名は関東アマチュアゴルフ選手権の決勝大会へのシード権が与えられることもあり、関東地区随一の実力者約150名が毎月集結する競技会である。当該競技に参加している選手は各アマチュア競技の全日本大会に出場している選手も多くアマチュア界のトップレベルである。

第1項 ホール毎の分析

毎月開催される関東月例競技に出場している約150名の内、2012年度5回以上参加している社会人選手92名のホールバイホールを分析した。比較対象としてレギュラーツアーに出場しているプロゴルファー（以下、レギュラープロ）とシニアツアーに出場しているプロゴルファー（以下、シニアプロ）のデータを用いた。

第2項 ラウンド結果から得られるデータの分析

関東月例競技参加選手のラウンド結果から得られるデータを分析するため、平均ストローク、フェアウェイキープ率、パーオン率、パーキープ率、サンドセーブ率、バーディー率、平均パット数を調査した。比較対象としてレギュラープロおよびシニアプロのデータを用いた。さらに詳しく調べるため重回帰分析も実施した。関東月例競技参加選手の各種データの取得方法としては参加者への直接インタビューと電話によるインタビューである。

第3章 アンケートおよびインタビュー調査結果

本章では、2012年10月25日から12月31日にかけて、プロゴルファーを始め、スクラッチプレーヤーからアベレージゴルファーまで様々なハンディキャップのアマチュアゴルファーに対して、2種類の方法（質問用紙配布、WEBアンケート）を用いてアンケート調査を実施した結果を示す。

アンケートは577名より回答を得たが、有効回答と判断した459名のアンケート結果について5つのカテゴリーに分けてまとめる。まず、図3-1にアンケート調査対象の分布を示す。5つのカテゴリー間の差はほぼなく平等な調査対象となっている。また、第1章の第1節で算出した通りアマチュア競技ゴルファーの平均年齢は52.6歳であったのに対して、今回のアンケート対象者の平均年齢は50歳であり誤差の範囲は5%であるため男子の競技ゴルファー全体の傾向をつかむためには十分信頼性があると言える。

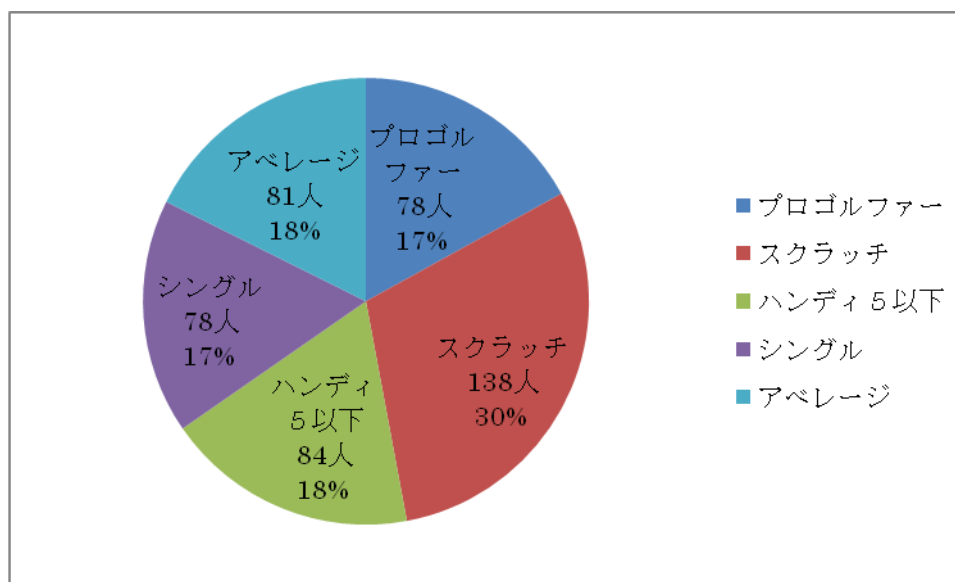


図 3-1 アンケート調査対象分布

第1節 アンケート調査結果

第1項 アンケート回答者の属性および基本技量

本項は年齢、職業、年収、ゴルフ歴、競技歴、ハンディキャップ、直近1年間の平均スコア、ベストスコア、ドライビングディスタンスについてのアンケート結果を表 3-1 に示して分析する。

表 3-1 属性および基本技量

カテゴリー	人数	年齢	職業	年収(万円)	ゴルフ歴	競技歴	HC	平均スコア	ベストスコア	D飛距離	
プロゴルファー	78	49.8	プロゴルファー	100%	1,028	31.8	29.7	0.0	70.8	63.5	269.8
スクラッチ	138	49.0	自営	75%	1,761	30.4	27.9	0.0	74.3	65.9	269.8
ハンディ5以下	84	50.9	自営	63%	1,412	28.4	23.1	2.8	77.8	68.3	258.1
シングル	78	50.5	経営者	48%	1,260	25.8	9.9	7.7	82.8	71.8	249.0
アベレージ	81	51.0	管理職	39%	982	23.7	7.5	13.6	88.5	77.2	238.4
平均		50.1			1,283	28.2	19.8	4.8	78.8	69.3	257.2

<職業>

ハンディ5以下より上級者のカテゴリーは自営であり、シングルは経営者、アベレージは管理職が多い。ゴルフにかかる時間（融通の利く時間）が異なるのであろう。

<年収>

全カテゴリー共に50歳前後が平均になっているが、ローハンディほど年収が高い。シングルより上級者ではプロよりもアマチュアの方が高年収である。

<ゴルフ歴、競技歴>

カテゴリーに応じた数値となっている。ローハンディほどゴルフを始めてから競技を始めるまでの期間が短い。初めから競技志向が強かったのであろう。

<ハンディキャップ、平均スコア、ベストスコア>

アマチュアはほぼハンディキャップに準じる数値となっており、プロとスクラッチの平均スコアの差は3.5である。スクラッチプレーヤーは、平均スコア74.3である。実際の日々のスコアは71から77であり、10枚のスコアカードの内、上位5枚の平均スコアが73になっている上、スクラッチプレーヤーのホームコースはコースレーティング（コース難易度）が73以上になっているコースも多いのでハンディキャップ0を取得できているのである。

<ドライビングディスタンス>

プロとスクラッチのドライバー飛距離は共に269.8ヤードと全く同じである。アマチュア同士を比べるとカテゴリー毎に10ヤードの差があり、飛距離はスコアとの関係において重要なファクターであることがわかる。

第2項 ラウンド数と練習量および費用

本項は年間ラウンド数、試合数、練習場での練習量およびそれにかけているそれぞれの費用についてのアンケート結果を表 3-2 に示して分析する。

表 3-2 ラウンド数と練習量および費用

カテゴリー	年間				練習場について		
	ラウンド数	試合数	ラウンド費用(万円)	用具費用(万円)	回数/月	分/回	球/回
プロゴルファー	191.2	35.2	231.9	23.0	21.7	123.5	298.2
スクラッチ	152.2	28.0	231.4	34.2	12.0	58.3	176.3
ハンディ5以下	98.0	21.7	209.0	51.3	8.8	68.6	159.9
シングル	52.5	11.1	123.2	34.9	5.5	80.1	152.3
アベレージ	28.5	6.4	102.9	25.1	4.2	94.3	141.7
平均	103.0	20.8	180.4	34.0	10.2	83.9	180.2

<ラウンド数>

週単位で言うと、プロ3.5回、スクラッチ3回、ハンディ5以下2回、シングル1回、アベレージ0.5回であり、定期的なラウンドがハンディ維持に繋がっていると言える。

<ラウンドに対する費用>

プロとスクラッチではゴルフにかかる費用はほぼ同じである。プロ資格を持っていれば、いつでもほぼ全てのゴルフ場が、メンバーフィーでラウンド出来るのでラウンド単価は安いであろう。単価で言うと、プロ1.2万円、スクラッチ1.5万円、ハンディ5以下2.1万円、シングル2.3万円となっている。ローハンディほど安くラウンドしていることになる。

<ゴルフ用具に対する費用>

スクラッチがハンディ5以下より少ないのは、モニター選手がいるためである。

<練習量>

上手な選手ほど練習回数も多く、打っている球数も多い。プロが週5日練習しているのに対してスクラッチは週3日、ハンディ5以下は週2日となっている。月間打球数はプロ6,500球に対してスクラッチ2,100球となっており3倍違うことがわかる。

スクラッチの中には練習場をほとんど利用していない選手もいる。個別に見てみると、このような選手はクラブの月例競技や研修会、地方ゴルフ連盟主催の競技等、ほぼ毎週試合に参加しており、実践中心にプレーしていることでハンディキャップ0を維持している。しかし、このような選手でも家ではアプローチやパター練習は行っている。

第3項 得意クラブおよび競技の経験と魅力

本項は得意クラブ、興味を持っていること、競技について魅力を感じているもの、競技出場経験、クラブチャンピオン経験の有無についてのアンケート結果を表 3-3 に示して分析する。

表 3-3 得意クラブおよび競技の経験と魅力

カテゴリー	得意クラブ		興味あるもの		競技の魅力		競技出場経験	クラチャン
プロゴルファー	ドライバー	75%	パッティング	67%	仕事	95%	100%	44%
スクラッチ	ドライバー	70%	スコアメイク	79%	自分への挑戦	84%	100%	94%
ハンディ5以下	ドライバー	60%	スコアメイク	63%	緊張感	48%	100%	82%
シングル	ドライバー	40%	ショットの正確性	45%	上手な人と	41%	98%	0%
アベレージ	ウェッジ	38%	アプローチ	40%	上手な人と	65%	90%	0%
平均							98%	55%

<得意クラブ>

シングルより上級者はドライバーが得意だと感じており、アベレージより下級者はドライバーに自信がないのかアイアンやウェッジを得意と感じている。

<興味あるもの>

シングルより下級者は得意なクラブに興味があるのに対して、プロはパッティング、ハンディ5以下より上級者はスコアメイクとなっており、勝つために必要なものに興味があるようだ。

<競技の魅力>

スクラッチが自分への挑戦と答えたのに対して、ハンディ5以下は半数が緊張感、シングルより下級者は上手な人とプレー出来ることを魅力に感じている。

<クラブチャンピオン>

スクラッチとハンディ5以下はほぼ全員クラブチャンピオンを経験している。60歳代のハンディ5以下の中には数年前はスクラッチプレーヤーとして活躍しクラブチャンピオンをとっていた選手もいる。逆にシングルより下級者ではクラブチャンピオンになれないことがわかる。

第4項 シニアプロへの興味

本項はシニアプロのツアーやオープン競技への興味と50歳を超えたときにプロになりたいのか、それともアマチュア資格でシニアツアーに出場したいのか、さらにシニアプロ競技の予選に参加出来るとしたらいくらまで支払えるかについてのアンケート結果を表3-4および表3-5に示して分析する。

表 3-4 シニアプロ競技への興味

カテゴリー	プロ競技出場の興味			シニアプロ志向	アマでシニアツアー出場
	プロツアー	チャレンジツアー	地域オープン競技		
プロゴルファー	100%	100%	100%	-	-
スクラッチ	99%	99%	100%	50%	50%
ハンディ5以下	90%	90%	99%	15%	81%
シングル	80%	78%	90%	4%	76%
アベレージ	60%	57%	80%	0%	25%
平均	85%	84%	94%	18%	58%

表 3-5 シニアプロへの興味と予選参加費用

カテゴリー	シニアプロ方法の認知	シニアプロアマへの興味	予選参加費用について(万円)		
			QT8戦	シニアツアー	地域プロアマ
プロゴルファー	-	-			
スクラッチ	75%	100%	24.4	2.8	2.3
ハンディ5以下	40%	90%	21.7	2.5	2.1
シングル	24%	57%	11.0	1.9	1.9
アベレージ	12%	41%	9.2	1.7	1.7
平均	38%	72%	16.7	2.3	2.1

まず、表3-4をみると、プロと一緒にプレー出来る競技に関して、ハンディ5以下より上級者では90%以上の選手が興味を持っている。地域密着型オープン競技に対しては、全体でも94%の選手が興味を持っている。スクラッチプレーヤーはほぼ100%の選手がプロ競技に興味を示しているが、プロ志向は50%であり、半分はアマチュアのままシニアツアーに出場したいと考えている。ハンディ5以下になるとプロ志向は15%であり、アマチュアのままシニアツアーに出場したいと考えているのは81%である。シニアプロになることに魅力を感じていないのか、アマチュアでプレーしていきたいと思っている選手が多い。

次に表3-5をみると、スクラッチプレーヤーでも25%の選手がプロになる方法を知らないという結果が出た。シニアプロツアーの予選参加費用について、実際に予選通過の可能性があるのはおおよそハンディキャップ5より上手な選手であり、その平均はツアー8戦全戦に参加出来るツアーメンバー予選に対して23万円、ツアー1戦に対して2.65万円、地域プロアマでは2.2万円出してでも参加したいと考えているようである。アマチュア競技(例、低額であればパブリック選手権0.6万円、高額なものは関東アマ2.1万円)の参加料に比べても多く支払ってもよいと考えていることからかなり興味をもっていることがわかる。

第5項 ゴルフに対する意識

本項はゴルフに対する意識、仕事面で何に役立っているのか、ゴルフに求めているもの、ゴルフにとって一番大切なものについてのアンケート結果を表 3-6 に示して分析する。

表 3-6 ゴルフに対する意識

カテゴリー	ゴルフとは		仕事で役立つ		求めるもの		大切なもの		平常心	マナー
プロゴルファー	生きがい	100%	忍耐力	81%	達成感	81%	平常心	79%	79%	5%
スクラッチ	生きがい	91%	積極性	63%	達成感	80%	平常心	60%	60%	27%
ハンディ5以下	生きがい	72%	積極性	42%	達成感	65%	マナー	42%	38%	42%
シングル	趣味	61%	忍耐力	48%	達成感	48%	マナー	58%	25%	58%
アベレージ	趣味	78%	忍耐力	60%	爽快感	71%	マナー	66%	12%	66%

<ゴルフとは>

レベルに準じて「生きがい」から「趣味」に変わっている。

<仕事で何に役立っているか>

プロは忍耐力、ハンディ5以下より上級者は積極性が1位になっている。アマチュアはプロのように賞金（生活）がかかっていないので積極的に攻められるのであろう。また、シングルより下級者では忍耐力が1位となっており、上級者に比べて耐えるイメージが強いようだ。

<求めるもの>

シングルより上級者は達成感を求めており、アベレージゴルファーは爽快感を求めている。

<大切なもの>

プロとスクラッチが平常心を選択しているのに対して、ハンディ5以下やシングルやアベレージでは平常心よりもマナーが大切だと感じている。プロやスクラッチプレーヤーは、マナーを守ることは当然であり個人の成績のための平常心を大切に感じているのであろう。

第6項 プロから見たアマチュア選手

本項はアマチュアゴルファーがプロの競技に出場することについてプロゴルファーはどう思っているのかについてのアンケート結果を表 3-7 に示して分析する。

プロゴルファーを対象にした質問だが、どの質問に対してもほぼ歓迎している。

プロツアーが盛り上がるのであればアマチュア選手が参加することも歓迎する選手が多い。

地域密着型プロアマオープン競技に関しては100%歓迎している。

表 3-7 プロから見たアマチュア選手

アマ資格でプロツアー参戦			アマがシニアプロへ転向			プロアマ地域オープン競技について		
大歓迎	53	67.9%	大歓迎	60	76.9%	大歓迎	70	89.7%
歓迎	20	25.6%	歓迎	15	19.2%	歓迎	8	10.3%
歓迎しない	5	6.4%	歓迎しない	3	3.8%	歓迎しない	0	0.0%
反対	0	0.0%	反対	0	0.0%	反対	0	0.0%

第2節 インタビュー調査結果

スクラッチプレーヤーをさらに細かく調査するため首都圏在住の30人に詳細インタビューを実施した。さらにプロゴルファー、ハンディ5以下、シングル、アベレージのそれぞれのカテゴリーのプレーヤーの違いを明らかにするためにそれぞれ10人ずつにインタビュー調査を実施した。

第1項 スクラッチプレーヤーのパーソナルデータ・生活環境

スクラッチプレーヤーのパーソナルデータを調査する上でおさらいとして先述のスクラッチプレーヤー138人から取得したアンケートデータを表3-8に示す。この内、30人に対してインタビュー調査を実施し、さらに詳細なパーソナルデータを取得した。その結果を表3-9に示す。

表 3-8 スクラッチプレーヤーのアンケートデータ

項目	数値	
平均年齢	49.0歳	
職業	自営業	75%
	経営者	12%
	医師	10%
	会社員	3%
平均年収	1,761万円	
年間ラウンド数	152ラウンド(週3回ラウンド)	
練習場	週3回	

表 3-9 スクラッチプレーヤーのパーソナルデータ

項目	数値	
平均年齢	48.9歳	
平均ゴルフ開始年齢	17.9歳	
日本アマ出場経験	83%が有り	
学歴・ゴルフ部歴	大学ゴルフ部出身	47%
	大卒ゴルフ部以外	43%
	高卒ゴルフ部以外	10%
職業	従業員10人までの自営業2代目 (エンドユーザー相手の商売ではなく、メーカーの下請け仲介等法人相手の商売が多い。食材・建築材・加工業等、時間の融通が利き、携帯電話で商売が出来る仕事が多い。大学ゴルフ部出身も多い)	30%
	経営者2代目 (ゴルフが趣味の父親が創業した会社で、本人は大学ゴルフ部出身が多く大学卒業時プロか家業を継ぐか迷い家業を継いだ。父親が会長で健在で、役員に業務執行を任せられる有能な役員が存在するので、安心して仕事を任せられ、ゴルフの時間を創り出せる)	20%
	開業医 (眼科・皮膚科・耳鼻咽喉科等代診のきく診療科が多い。職住近接の場合、昼休みにアプローチ・パター練習し、朝夕にゴルフレンジに行く人もいる。木曜日と日曜日のラウンドは、土日連続ラウンドよりもうまくなる確率が高いようだ。)	17%
	不動産管理業自営 (貸ビル・貸マンション・パチンコ店等、不動産が収益を稼いだす)	13%
	コンサル自営 (不動産仲介・金融コンサル等ゴルフ主体の生活にするために独立)	7%
	勤務医 (試合に合わせシフトを組むことが出来る、中には外科医からゴルフの時間を創り出すために病理に移った人もいる)	7%
	パイロット (国際線のパイロットで日本・海外での滞在時間にゴルフをし、日・米・ブラジルのクラブチャンピオンになった人もいる)	3%
	会社員 (回りの理解を得ながら有休を活用し、時間を創り出している)	3%

居住地	東京 2 3 区	4 7 %
	神奈川	2 7 %
	千葉 （ゴルフ場近郊に引っ越しした人もいる）	1 6 %
	都下	7 %
	埼玉	3 %
自宅	戸建 （練習環境を創り出すために戸建が多い）	8 0 %
	マンション	2 0 %
自宅での練習環境	庭 （鳥かごレンジ練習、10ヤード程度のアプローチ練習、人工芝を敷きパター練習する本格的な人もいる）	6 7 %
	リビングルーム （パターマットで2Mのパター練習、カーペットからソファーマットに向けてアプローチ練習する人もいる）	1 6 %
	屋上 （ルーフバルコニー・戸建の屋上で本格的に10ヤードほどの鳥かごを作っている人もいる）	1 0 %
	地下室 （戸建の地下に防音室を作り本格的なゴルフシュミレーターを導入し、毎日朝晩練習している人もいる）	7 %
車	レクサス （自営業2代目・経営者2代目が多い。移動距離が長い ためハイブリッド車も多い）	4 7 %
	メルセデスベンツ （医師・不動産業・コンサル自営に多く、大半がSクラスである）	3 7 %
	他欧州車 （BMW・ポルシェ・アウディ・マセラッティ等のスポーツカー）	1 6 %
練習場までの時間	平均13分 （週3回の練習場通いのため、練習場に近いところに住んでいる）	
ホームコースまでの時間	平均34分 （週3回通っている。平日は朝一番に行き正午にはホールアウトし仕事をするような生活である。戸塚CC・横浜CC・相模原GC・袖ヶ浦CC・鷹の台CC等交通便のよいゴルフ場のメンバーである。）	

第2項 練習場について

練習場での練習内容と自宅での練習内容についてインタビューを実施した。練習場での使用クラブについて表 3-10 に示す。表から一番顕著に言えるのはウェッジの練習割合の違いである。具体的にはプロとスクラッチではウェッジを一番沢山練習しているが、ハンディ5以下、シングル、アベレージはアイアンの練習が一番多い。

プロとスクラッチは、ウェッジに関して、ランニング・ピッチ・ピッチエンドラン・ロブショットの打ち分けおよび、10ヤード刻みの距離毎に打ち分けている。更にプロとスクラッチは、ドライバー・FW ウッド・アイアンに関して、ストレートのナイスショットばかりを打つのではなく、フック・ストレート・スライスの打ち分けをしていて、練習から実践に備えている。

ほとんどのハンディ5以下、シングル、アベレージは自宅に練習環境を持っていないが、スクラッチの8割が自宅でアプローチ練習が出来る環境を作っている。自宅練習場（庭・リビングルーム・屋上・ルーフバルコニー・地下室）で、ほぼ毎日10分程度練習している。スクラッチの中には、ゴルフ場近くに引っ越した選手や練習場から徒歩で行ける場所に引っ越した選手もいる。毎日練習出来るように、ルーフバルコニー付の中古マンションを購入した選手もいる。

プロやスクラッチの中にはラウンドがない休みの日にコースに行って1日中アプローチとパターの練習をしている選手もいる。

表 3-10 練習場での使用クラブ

練習クラブ	プロ	スクラッチ	ハンディ5以下	シングル	アベレージ
ドライバー	14.7%	17.3%	20.7%	21.7%	22.6%
FW ウッド	16.0%	19.6%	17.8%	21.0%	25.0%
アイアン	32.7%	28.5%	37.6%	36.2%	35.7%
ウェッジ	36.5%	34.6%	24.0%	21.0%	16.7%

続いて、パター練習量について表 3-11 に示す。パター練習量はレベルによって大きく差がある。プロとスクラッチは、ほぼ毎日練習しているが1日あたりの練習時間が2倍近く違うため、トータル量ではプロの方が2倍以上沢山練習している。シングルとアベレージはほとんど練習していない。

表 3-11 パター練習量

項目	プロ	スクラッチ	ハンディ5以下	シングル	アベレージ
日/週	6.6	5.7	3.3	0.7	0.0
分/日	24.0	13.0	8.0	5.6	0.0
分/週	158.4	74.1	26.4	3.9	0.0

第3項 ラウンド前後について

本項では、ラウンド前とラウンド後の練習についてのインタビュー調査結果を示す。プロとスクラッチはラウンド前もラウンド後も1時間程度の入念な練習を行っている。やはり絶対的な練習量と本番に近い意識を持ちながら練習することが大切である。

<プロ・スクラッチ>

ゴルフ場には、2時間前に入り、ストレッチ、パター、レンジ、アプローチ、パターの順番で練習する。ラウンド前、レンジでは50球から100球実践に備え、使用クラブを推測し練習する。同じ球種を2球打つことはあまりなく、フック・スライス・ストレートを打ち分けている。ショートホールでの使用クラブの練習は入念に行うが、その中でも特に最初のショートホールの使用クラブを入念に練習する。ショートホール4ホールをイメージし、ピン位置・風をシュミュレーションし「右バンカー超え5ヤードをドロウ5番アイアン」として打つ。最後の5球は、ショート4ホールと、最後の1球は、一番ティーのドライバーショットをイメージして打つスクラッチプレーヤーもいた。

ロングパットは、くんだり、のぼり、スライス、フックを打ち分けて全パターンを入念に確認する。ショートパットは、あらゆる方向45度ずつ8方向から、1メートルから2メートルの距離を強めにカップインさせる。

アプローチは、バンカーの砂、ランニングのころがり、ピッチショットのスピンを実践に備え確認する。

ほとんどのプレーヤーがラウンド後も必ず1時間から2時間練習する。特にその日のミスショットを練習する。ゴルフ場が最高の練習場と考え、アプローチとパターの練習をする。練習器具を使用した練習も多用する。ハンディ5以下より下級者は時間に余裕があれば1.5ラウンドするが、スクラッチはあまり1.5ラウンドをせずに練習しているプレーヤーが多い。

試合の練習ラウンドではピンポジションを想定し、ピンポジション毎に、外してはいけない場所（バンカー等）を確認する。1球の球をホールアウトさせるだけでなく、グリーンを一回りし4分割し、メモをとるのである。そうすることで、寄せにくいアプローチ、寄せにくいバンカーを極力避けるアイアンショットを打つ。その結果、パーセーブ率・サンドセーブ率が高くなるのである。

<ハンディ5以下>

ラウンド前はドライバー、アイアンでその日のショットを調整する。ラウンドの1時間前に現地入りしラウンド前にレンジ50球、アプローチ50球、パター50球をやるプレーヤーが多い。3割のプレーヤーはラウンド後もアプローチ練習している。

<シングル・アベレージ>

特にこだわらず練習している。ラウンド前の練習は体を暖めるためと位置付けている選手が多い。

第4章 ゴルフの技量に関する調査

第1節 ホール毎の分析

2012年の関東月例競技全10戦に出場している約150名の内、5回以上出場した社会人男子選手92名の全試合のスコアをホール毎に分析し、スクラッチプレーヤーの中で関東アマチュア選手権決勝のシード権を取得出来る選手（トップ25位までの選手）の必要条件を明確にする。毎月得られるポイントの平均点により決定した順位に対してのスコアリング成績（バーディー率（イーグル以上含む）、パー率、ボギー率、ダブルボギー率（トリプルボギー以下含む）を分析する。ポイントとは各月の競技成績により、1位25点から順次25位1点まで与えられる得点である。

さらに比較対象として2012年レギュラーツアーに5試合以上出場しているプロゴルファー（以下、レギュラープロ）138名とシニアツアーに3試合以上出場しているプロゴルファー（以下、シニアプロ）121名を上位選手と下位選手に分けて検証する。

第1項 全体のスコアリング分析

スクラッチプレーヤー、レギュラープロ、シニアプロそれぞれの上位25名と下位25名のバーディー率、パー率、ボギー率、ダブルボギー率の平均値を表4-1に示す。さらに横軸を順位としたバーディー率、パー率、ボギー率、ダブルボギー率の推移を参考図として末尾の図1から図12に示す。なお、図中に記載の直線と式は上位と下位の差を明確にするための線形近似直線である。一般式は $y = ax + b$ であり、今回用いる a は順位の変動に伴うそれぞれのパーセンテージの増減の割合である。すなわち、この a の値（直線の傾き）が相対的に大きいということは上位と下位の差が大きいことになる。この上位と下位の差による傾きの値を表4-2に示す。

表 4-1 スコアリング

カテゴリーと順位		バーディー	パー	ボギー	ダブルボギー
スクラッチ	上位	12% (2. 2)	58% (10. 4)	25% (4. 5)	5% (0. 9)
	下位	7% (1. 3)	46% (8. 3)	36% (6. 5)	11% (2. 0)
レギュラー プロ	上位	21% (3. 8)	67% (12. 1)	11% (2. 0)	1% (0. 2)
	下位	15% (2. 7)	65% (11. 7)	18% (3. 2)	2% (0. 4)
シニアプロ	上位	20% (3. 6)	68% (12. 2)	11% (2. 0)	1% (0. 2)
	下位	7% (1. 3)	61% (11. 0)	28% (5. 0)	4% (0. 7)

※かっこ内の数字は1ラウンドあたりの個数

表 4-1 から言えることは次の通りである。

- ・スクラッチとシニアプロの上位と下位の差は大きい、レギュラープロは上位と下位の差が小さい。
すなわち、レギュラープロの実力は均衡しているということになる。
- ・レギュラープロ・シニアプロとスクラッチで一番際立つ違いはダブルボギーである。1ラウンド中にスクラッチは上位で1つ下位では2つダブルボギーを打っているが、プロはほぼダブルボギーを打っていないことになる。
- ・レギュラープロ・シニアプロ上位は、バーディー率が高い。バーディーの差が勝つための条件である。
- ・スクラッチ上位はレギュラープロやシニアプロ上位には及ばないが、シニアプロ下位より少し上回っている。

表 4-2 上位と下位の差による傾き

カテゴリー	バーディー	パー	ボギー	ダブルボギー
スクラッチ	▲8	▲17	17	8
レギュラープロ	▲6	▲1	6	1
シニアプロ	▲13	▲6	16	3

表 4-2 から言えることは次の通りである。

- ・スクラッチはパー率とボギー率の勾配が大きい。パーをしっかり拾えている選手は上位であり、ボギーになってしまう選手は下位になるということである。いかにパーを拾うかがカギとなる。
- ・シニアプロはバーディー率とボギー率の勾配が特に大きい。バーディーを狙ってしっかり取っている選手が上位になり、バーディーを狙った結果ボギーになってしまう選手が下位なのであろう。実力差も大きいのであろう。
- ・レギュラープロは上位と下位の差はあまりなく実力差は少ないと言える。

第2項 ホール別のスコアリング分析

第1項をさらに詳しく分析するため、Par 3、Par 4、Par 5に分解して分析した。求めたバーディー率（イーグル以上含む）、パー率、ボギー率、ダブルボギー率（トリプルボギー以下含む）を表 4-3 に示す。

表 4-3 ホール別のスコアリング

ホール	カテゴリーと順位		バーディー	パー	ボギー	ダブルボギー	平均 スコア
Par 3	スクラッチ	上位	8% (0.3)	62% (2.5)	27% (1.1)	3% (0.1)	3.2
		下位	5% (0.2)	49% (2.0)	37% (1.5)	8% (0.3)	3.5
	レギュラー プロ	上位	17% (0.7)	67% (2.7)	15% (0.6)	1% (0.0)	3.0
		下位	10% (0.4)	69% (2.8)	20% (0.8)	0% (0.0)	3.1
	シニアプロ	上位	14% (0.6)	73% (2.9)	12% (0.5)	0% (0.0)	3.0
		下位	4% (0.2)	62% (2.5)	31% (1.3)	3% (0.1)	3.3
Par 4	スクラッチ	上位	8% (0.8)	59% (5.9)	28% (2.8)	5% (0.5)	4.3
		下位	4% (0.4)	44% (4.4)	39% (3.9)	13% (1.3)	4.6
	レギュラー プロ	上位	15% (1.5)	72% (7.2)	12% (1.2)	1% (0.1)	4.0
		下位	11% (1.1)	65% (6.5)	21% (2.1)	3% (0.3)	4.1
	シニアプロ	上位	17% (1.7)	69% (6.9)	12% (1.2)	1% (0.1)	4.0
		下位	7% (0.7)	62% (6.2)	27% (2.7)	4% (0.4)	4.3
Par 5	スクラッチ	上位	26% (1.0)	56% (2.2)	14% (0.6)	4% (0.2)	5.0
		下位	11% (0.4)	54% (2.2)	28% (1.1)	8% (0.3)	5.3
	レギュラー プロ	上位	43% (1.7)	51% (2.0)	6% (0.2)	1% (0.0)	4.6
		下位	27% (1.1)	59% (2.4)	12% (0.5)	2% (0.1)	4.9
	シニアプロ	上位	34% (1.3)	58% (2.3)	7% (0.3)	1% (0.0)	4.8
		下位	12% (0.5)	65% (2.6)	17% (0.7)	5% (0.2)	5.2

※かっこ内の数字は Par 3 が 4、Par 4 が 10、Par 5 が 4 ホールとした場合の 1 ラウンドあたりの個数

表 4-3 から言えることは次の通りである。

- ・ Par 3 では、バーディーはレギュラープロ上位であっても 1 つ未満であり、パーで十分である。
- ・ Par 4 では、レギュラープロ上位・シニアプロ上位は、バーディーを積極的に獲得している。
- ・ Par 5 では、レギュラー上位は 43%、シニア上位は 34% がバーディーである。
- ・ スクラッチ下位・シニアプロ下位は、Par 3・Par 4 でボギーを打っている。
- ・ スクラッチ下位は、Par 4 でダブルボギーを 1 つ以上打っている。
- ・ Par 3 と Par 4 ではスクラッチ上位とシニアプロ下位がほぼ同じ数値だが、Par 5 ではスクラッチはシニアプロ下位より上回っており、レギュラープロ下位と同レベルのスコアリングをしている。

次に、上位と下位の成績の差による傾きの値を表 4-4 に示す。また、参考図として、Par 3、Par 4、Par 5 のスコアリンググラフを末尾の図 1 3 から図 4 8 に示す。

表 4-4 ホール別の上位と下位の差による傾き

ホール	カテゴリー	バーディー	パー	ボギー	ダブルボギー
Par 3	スクラッチ	▲3	▲21	17	7
	レギュラープロ	▲5	▲1	6	0
	シニアプロ	▲10	▲11	18	3
Par 4	スクラッチ	▲5	▲22	16	11
	レギュラープロ	▲4	▲5	7	2
	シニアプロ	▲12	▲9	17	3
Par 5	スクラッチ	▲23	▲2	20	5
	レギュラープロ	▲13	7	5	1
	シニアプロ	▲21	6	11	4

表 4-4 から言えることは次の通りである。

- Par 5 のバーディーはいずれも勾配が大きく、Par 5 でバーディーを取ることが重要である。特にスクラッチ・シニアプロでは、差が大きい。レギュラープロはバーディーが当たり前なのであろう。
- スクラッチは、Par 3 と Par 4 ではパー率とボギー率の勾配が大きく、Par 5 ではバーディー率とボギー率の勾配が大きい。Par 3 と Par 4 はパーを狙って取れている選手が上位になり、取れていない選手が下位になっている。Par 5 ではバーディーを狙ってしっかり取れている選手が上位になり、バーディーを狙ってかえってボギーになっている選手が下位になっているのであろう。
- スクラッチは、Par 4 でのダブルボギーに勾配が付いている。スクラッチ下位は Par 4 でダブルボギーを打っていることになる。
- シニアプロは、Par 3 と Par 4 においてバーディーの差が大きい。実力差が大きいのであろう。
- レギュラープロの勾配差はほとんどないことから実力差はないのであろう。唯一の差は Par 5 である。Par 5 でバーディーが取れるかどうかで勝敗が決まるのであろう。

第3項 ラウンド結果から得られるデータの分析

本節ではプロゴルファーとスクラッチプレーヤーのラウンド結果から得られるデータを比較して具体的に何が違うのか検証する。プロゴルファーとスクラッチプレーヤーの平均ストローク、パーキープ率、バーディー率（イーグル含む）、パーオン率、平均パット（パーオンしたホールの平均パット数）、ドライビングディスタンス、フェアウェイキープ率、サンドセーブ率（バンカーに入れたが1パットで切り抜かれた率）を表 4-5 に示す。

表 4-5 ラウンド結果から得られるデータ

	平均 ストローク	パーキープ率	バーディー率	パーオン率	平均 パット数	ドライビング ディスタンス	フェアウェイ キープ率	サンド セーブ率
レギュラー シードプロ	71.9	82.8%	17.7%	62.8%	1.80	280.7	51.3%	45.2%
シニア シードプロ	70.9	81.3%	14.1%	63.5%	1.81	270.2	53.7%	40.5%
スクラッチ 上位	73.4	73.0%	11.6%	58.2%	1.95	269.8	50.2%	24.2%
スクラッチ 下位	74.3	66.2%	6.8%	56.0%	2.03	265.0	49.5%	19.1%

プロゴルファーとスクラッチプレーヤーの差は、パーキープ率と平均パット数とサンドセーブ率であることがわかる。この3項目が一番重要な平均ストロークに影響していると思われる。パーオン率の差はほとんど変わらないにもかかわらず、パーキープ率はプロとスクラッチ上位選手で10ポイント違い、さらにスクラッチ下位とも7ポイント違う。すなわち1ラウンド18ホール中、プロ・スクラッチ共に11ホールパーオンし7ホールグリーンを外す。その7ホール中、プロは4ホールパーがとれ、スクラッチ上位は3ホールパーがとれ、スクラッチ下位は1ホールパーをとっている。平均パット数だけで1ラウンドあたり1から2打違うことになる。また、サンドセーブ率に関してヒアリングによると、バンカーショットの上手さも当然あるが、寄せることが出来ないバンカーにいられてしまっていることが、サンドセーブ率が低くなる大きな原因となっている。

すなわち、パーを死守するためにアプローチも重要だがグリーンを狙うセカンドショット等で、入れてはいけないバンカーや寄せることができない場所に外さないことが重要である。

第2節 重回帰分析

本節では、プロゴルファーとスクラッチプレーヤーの腕前の違いは何が影響しているのか調べるため重回帰分析を実施した。

第1項 スクラッチプレーヤーの重回帰分析

スクラッチ92名を対象に重回帰分析を実施した。説明変数を7項目（平均ストローク、パーキープ率、バーディー率、パーオン率、平均パット、ドライビングディスタンス、フェアウェイキープ率）として目的変数である獲得ポイントへの影響度合いを分析した。重回帰分析結果を表4-6に示す。

表4-6を見ると、補正R二乗の値が0.7であり0.4以上であるためこの分析は説明力があると言える。バーディー率とドライビングディスタンスとフェアウェイキープ率は、いずれもtの絶対値が $\sqrt{2}$ 以上、P値は0.05以下であるため、目的変数である獲得ポイントに対して影響があると言える。バーディー率との関係性が強くアマチュア界でも上位にいくためにはバーディーが必要不可欠である。

表 4-6 スクラッチプレーヤーの重回帰分析

回帰統計								
重相関 R	0.846							
重決定 R2	0.715							
補正 R2	0.705							
標準誤差	6.830							
観測数	92							
分散分析表								
	自由度	変動	分散	分散比	有意 F			
回帰	3	10,294.200	3,431.400	73.567	0.000			
残差	88	4,104.625	46.643					
合計	91	14,398.825						
	係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%	下限 95.0%	上限 95.0%
切片	-170.259	41.782	-4.075	0.0001	-253.291	-87.227	-253.291	-87.227
バーディー率	1.613	0.307	5.258	0.0000	1.003	2.223	1.003	2.223
Dディスタンス	0.554	0.164	3.372	0.0011	0.227	0.880	0.227	0.880
FWキープ率	0.882	0.122	7.225	0.0000	0.640	1.125	0.640	1.125

第2項 レギュラーツアープロゴルファーの重回帰分析

レギュラーツアー賞金ランキング100位以内の選手を対象に重回帰分析を実施した。説明変数を8項目（平均ストローク、パーキープ率、バーディー率、パーオン率、平均パット、生涯獲得賞金、ドライビングディスタンス、フェアウェイキープ率）として目的変数である獲得賞金への影響度合いを分析した。重回帰分析結果を表4-7に示す。

表4-7を見ると、補正 R 二乗の値が0.58であり0.4以上であるためこの分析は説明力があると言える。平均ストロークとパーキープ率とバーディー率は、いずれも t の絶対値が√2以上、P 値は0.05以下であるため、目的変数である獲得賞金に対して影響があると言える。また、影響の度合いを数式で表すと次のようになる。

$$\text{『獲得賞金』} = 841.1 - 16.1 \times (\text{平均ストローク}) + 3.3 \times (\text{パーキープ率}) + 20.0 \times (\text{バーディー率})$$

要するに、プロセス指標は関係性が低く、結果指標が重要である。

表 4-7 レギュラーツアーの重回帰分析

回帰統計								
重相関 R	0.772							
重決定 R2	0.596							
補正 R2	0.583							
標準誤差	17.103							
観測数	100							
分散分析表								
	自由度	変動	分散	測された分散	有意 F			
回帰	3	41,396.158	13,798.719	47.175	0.000			
残差	96	28,080.010	292.500					
合計	99	69,476.168						
	係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%	下限 95.0%	上限 95.0%
切片	841.145	401.375	2.096	0.0387	44.422	1,637.867	44.422	1,637.867
平均ストローク	-16.067	4.283	-3.752	0.0003	-24.568	-7.566	-24.568	-7.566
パーキープ率	3.312	1.391	2.382	0.0192	0.552	6.072	0.552	6.072
バーディー率	20.015	5.929	3.376	0.0011	8.246	31.784	8.246	31.784

第3項 シニアツアープロゴルファーの重回帰分析

シニアツアー賞金ランキング100位以内の選手を対象に重回帰分析を実施した。説明変数を8項目（平均ストローク、パーキープ率、バーディー率、パーオン率、平均パット、生涯獲得賞金、ドライビングディスタンス、フェアウェイキープ率）として目的変数である獲得賞金への影響度合いを分析した。重回帰分析結果を表4-8に示す。

表4-8を見ると、補正R二乗の値が0.48であり0.4以上であるためこの分析は説明力があると言える。バーディー率とドライビングディスタンスとフェアウェイキープ率は、いずれもtの絶対値が√2以上、P値は0.05以下であるため、目的変数である獲得賞金に対して影響があると言える。また、影響の具合を数式で表すと次のようになる。

$$\text{『獲得賞金』} = -84.45 + 0.27 \times (\text{バーディー率}) + 0.24 \times (\text{Dディスタンス}) + 0.42 \times (\text{FWキープ率})$$

スクラッチ、レギュラーツアーと同様、バーディー率との関係性が強く、プロで賞金を稼ぐためにはバーディーが必要不可欠である。

一方、「生涯獲得賞金」とシニアツアーでの獲得賞金には相関関係性が低い。これは若い時に活躍している選手が必ずしもシニアツアーで活躍しているわけではなく、シニアになってから初めて活躍している選手が大勢いると言える。

表4-8 シニアツアーの重回帰分析

回帰統計								
重相関 R	0.708							
重決定 R2	0.501							
補正 R2	0.489							
標準誤差	3.556							
観測数	100							
分散分析表								
	自由度	変動	分散	測された分散	有意 F			
回帰	3	1,564.134	521.378	41.239	0.000			
残差	96	1,555.087	12.643					
合計	99	3,119.220						
	係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%	下限 95.0%	上限 95.0%
切片	-84.452	16.644	-5.074	0.0000	-117.397	-51.506	-117.397	-51.506
バーディー率	0.272	0.092	2.947	0.0038	0.089	0.455	0.089	0.455
Dディスタンス	0.239	0.063	3.822	0.0002	0.115	0.363	0.115	0.363
FWキープ率	0.422	0.069	6.121	0.0000	0.285	0.558	0.285	0.558

第5章 考察

全国のゴルファー約1,000万人（総務省統計局調べ）の内、JGAハンディキャップ所持者は男女合わせて約15万人であり、わずか1.5%である。2014年から全国全コースの統一ハンディキャップ制の導入、シニアのゴルフ離れの2015年問題、2016年リオデジャネイロ五輪からゴルフが正式種目に復活するなど日本ゴルフ界にとって変革を迎える。

アマチュアゴルファーの上達プロセスは、社用ゴルファーから趣味ゴルファーになり、ハンディキャップを取得し、アベレージプレーヤーになり、競技ゴルフを本格的に始め、シングルプレーヤーになり、ハンディキャップ5以下プレーヤーになり、スクラッチプレーヤーになるのである。

そこで、アマチュアゴルファーの最高峰であるスクラッチプレーヤーの生活環境、ゴルフに対する考え方・流儀、ラウンド環境、練習環境、ゴルフの技量を科学的に明らかにした。

第1節 生活環境

男子スクラッチプレーヤーは、全国に460人しかいない。JGAハンディキャップ男子所持者のわずか0.4%である。平均年齢は41歳、職業は自営業者が75%、平均年収は1,760万円、ゴルフ費用として年間300万円使っている。年間ラウンド数は150回（週3回）、その内30回は競技でのラウンドである。ゴルフ練習場には週3回（1時間・180球／回）通っている。ゴルフを開始した平均年齢は18歳、平均スコアは74、ベストスコアは66、日本アマに80%が出場しており、大半がクラブチャンピオンを経験している。得意クラブはドライバーであり、スコアメイクに興味を持っており、競技の魅力は自分への挑戦であると考えている。社会人として仕事とゴルフを両立し文武両道を極めている。大別すると2つのタイプに分かれる。

1つ目のタイプは、2代目自営業者・2代目経営者である。この選手たちは幼少の頃からゴルフを嗜み大学ゴルフ部に進学し、大学卒業時プロを目指すのか、家業を継ぐのかを迷ったあげく家業を継ぎ、競技アマチュアゴルフを継続している。自営業者はエンドユーザー相手の商売ではなく、メーカーの下請け仲介等法人相手の商売（食材・建築材等）が多い。携帯電話で商売ができゴルフの時間を作りやすい環境にある。経営者は、会長として父親が現役か、仕事を安心して任せられる有能な業務執行出来る役員が存在するため、ゴルフの時間を作り出すことが出来る。自営業者の中には、50歳を期にシニアプロになる人もいる。

2つ目のタイプは、社会人になってからゴルフを始め競技ゴルフの魅力に取り付かれていて、自らの努力で独立し自由にゴルフが出来る環境を創り出した人である。医師・弁護士・パイロット・コンサルタント・不動産ビジネス等生活の基盤は磐石な上に、趣味が高じて特技になり、もはや生きがいとして競技ゴルフを満喫している。医師であればゴルフのために代診の効く診療科に変えたり、国際線パイロットであれば海外のゴルフ場のメンバーになったり、一流企業の会社員から個人事業主コンサルタントとして独立した人もいる。一流企業を早期退職し不動産管理業として生計を立てる人もいる。このタイプの人は、ビジネス経験と人脈も豊富のため、名門ゴルフクラブの中心的な模範的メンバーであり、理事・役員を務め、上部組織の日本ゴルフ協会・関東ゴルフ連盟の役員・委員を務めている人も多い。

第2節 ゴルフに対する考え方・流儀

スクラッチプレーヤーはゴルフを生きがいだと思っており、仕事にも大いに役立っていると感じている。大切なことは平常心とマナーだと思っており、達成感を求めながらゴルフをしている。

ゴルフという競技スポーツを真摯にとらえ、マナー・エチケットには当然配慮し、規則・ルールに詳しく、フェアプレーの精神でアマチュアゴルファーの模範となっている。上手だからといっておごることなくいつも謙虚に努めている。プレーファースト（他人に迷惑をかけずスムーズにプレーすること）も常に心がけ普段の生活から素早い行動・判断を励行している。ゴルフ場での昼飯時でも、悩まずすぐに注文している。特にスクラッチプレーヤーの中でも上位者は、ゴルフとは心を鍛える競技であると捉え、4日間戦う集中力があり、オンオフの切り替えが素早い。一瞬の隙も作らない選手が試合に勝っている。

所属ホームコースにおいては、競技委員等の要職に就いていて後進の指導、中級者への技術・マナー・ルール・エチケット指導も率先して行っている。コースへの愛情は、どのメンバーよりも強く、ディボット跡の目土、グリーンのピッチマークの修復も率先して行っている。中にはコース職員とともに早朝よりコースメンテナンスをしているスクラッチプレーヤーもいる。18ホール終了後は、コースへの感謝の意をこめてコースを振り返って一礼する選手もいる。

また、プロトーナメントへの憧れもあり、プロトーナメント出場経験はほぼ100%である。50歳未満の選手の約半数が50歳を期にシニアプロになりたいと思っており、シニアプロツアー競技がアマチュア選手に開放されたらほぼ全員が予選に出場したいと考えている。予選参加費用に関しても、アマチュアの試合（6,300円から21,000円）以上の金額（平均28,000円）を支払ってもよいと考えているほどの熱意である。

第3節 ラウンド環境

ホームコースから30分程度の地に居を構え、週に3回程度ラウンドしている。朝早くスタートし昼過ぎにはホールアウトし、その後、仕事に行くなり練習するなりして時間を有効に使っている。

ラウンド前には、スタート時間の2時間前に到着し、まず脱衣場やロッカールームの長椅子でストレッチをする。次に練習グリーンに向かい、ロングパットでフック・スライスの曲がり、下り・上りの早さを確認する。次にドライビングレンジでいろいろな球筋を打ち、特にショートホール4つに関しては、本番の距離・風・ピン位置をイメージして練習する。最後に1番ティーのドライバーをイメージして打つ。その後、アプローチ練習場でバンカーの砂の固さ、ランニングアプローチのころがり、ピッチショットのスピンを実践に備え確認する。最後にもう一度練習グリーンに行き1メートルから2メートルのショートパットを45度ずつ8方向から強めにカップインさせる練習をする。

ラウンド中の特徴的な行動としては、ドライビングディスタンス・パーオン率・パーキープ率・バーディー率・フェアウェイキープ率・パット数・サンドセーブ率が分析出来るようにスコアカードに記載しており、自己のスコア管理をシステム化している。さらに、ショット毎に優劣をつけており、これにより自らを研究している選手も多い。ミスが多いクラブやショットを集中して練習することで効率よく上達し成果を挙げている。

試合のための練習ラウンドでは、1つのボールをホールアウトするだけでなく、ティーショットで打ってはいけないゾーン（セカンドでグリーンを狙いにくい場所）、セカンドショットで打ってはいけないゾーン（アプローチでピンに寄せられない場所）を見つけチェックしている。グリーンを一回りし4分割しメモをとる。そうすることで、事前にスコアメイクのための準備をしている。スコアメイクの戦略として、ダブルボギーを打たないこと、ロングホールでバーディーを狙いボギーを打たないことを心がけている。また、アプローチで寄せてパーを拾う戦略を信条としている。ゴルフ場は最高の練習場と捉えており、ラウンド後は必ず1時間程度練習する。その日のミスショットを重点的に練習する。1.5ラウンドすることよりも1ラウンドにこだわり残りを練習時間に当てるのも特徴である。

ラウンドの流儀として、アマチュアゴルフ界のトップ、スクラッチプレーヤーの頂点である阪田哲男氏（63歳）（袖ヶ浦CC競技委員長・元ナショナルチーム監督・公式戦通算99勝・世界アマ優勝）が、NHKの中老年対象のゴルフ番組『阪田哲男のトップアマゴルフの流儀69か条』に述べている流儀のいくつかをピックアップする。アドレスの流儀として打つ前にミスをするな。スイングの流儀として急いではことを仕損じる。ミドルアイアンの流儀としてピンを狙わずセンターセオリー。ショートアイアンの流儀としてピンオーバーはご法度。ロングパットの流儀としてカップを狙うことが全ではない、としている。

第4節 練習環境

スクラッチプレーヤーはゴルフ練習場から15分程度の地に居を構え、週に3回練習場に行き、限られた時間を有効的に使うため1時間で180球打って切り上げている。練習するクラブの内訳としては、ウェッジ70球（35%）・アイアン50球（30%）・フェアウェイウッド40球（20%）・ドライバー20球（15%）でありウェッジを一番多く練習している。スクラッチプレーヤーの平均スコアが74だとして、パター28回を引くと46ショットになる。その内訳はドライバー10球（20%）・フェアウェイウッド10球（20%）・アイアン16球（40%）・ウェッジ10球（20%）である。本番での使用を意識した球数であることがわかる。また、コースの風景や状況をイメージして具体的なシチュエーションを思い描いて練習しており、同じ球を連続で打つことはあまりなく、ドロー・フェード・ストレート・高い球・低い球と打ち分けている。アプローチの練習では、ピッチ・ランニング・ピッチエンドランと打ち分けておりスピン量も意識している。

自宅では、庭やバルコニー等に鳥かごの練習ネットを作り、朝晩クラブを振っている。鳥かごでフルスイングし、芝庭で10ヤードほどのアプローチ練習をしている。朝晩アプローチ練習をすることで感覚を維持している。パターに関しても、ほぼ毎日リビングルームのパターマットで、10分50球程度練習している。

ゴルフコースに備え付けのアプローチ練習場では、グリーン回り・5ヤード・10ヤード・20ヤード・30ヤード・40ヤード・50ヤードの距離、ランニング・ピッチエンドラン・ピッチショットを打ち分ける。バンカーショットもつま先上がり・つま先下がり・左上がり・左下がり・固い砂・柔らかい砂等あらゆるシチュエーションで本番を想定し練習している。ある選手は、必ず1.5ラウンドするが、1.5ラウンド目はスコアをつけずにアプローチの練習と決め付け、グリーンエッジに届かないクラブでセカンドショットを打ち、毎ホールアプローチを練習する。

ゴルフコースに備え付けの練習グリーンでは、普段のパターマットでは経験できないロング・ミドル・ショート・スライス・フックラインを選び打ち分けている。特にショートパットは、45度ずつ8方向から強めにカップインする練習をしている。

ゴルフ練習場に通う回数は、アベレージは月2回、シングルは週1回、ハンディ5以下は週2回、スクラッチは週3回、プロは週5回である。月間打球数に換算すると、アベレージ600球、シングル840球、ハンディ5以下1,400球、スクラッチ2,100球、プロ6,500球である。練習量は技量レベルに比例して多くなっており、プロはスクラッチの3倍ショット練習をしている。

パター練習では、ハンディ5以下は週25分、スクラッチは週75分、プロは週150分である。プロはスクラッチの2倍パター練習しており、この練習量の差がラウンド中のバーディーの数や3パットをしないパターの精度に繋がっていると思われる。

第5節 ゴルフの技量について

スクラッチプレーヤーは、日々のスコアは71から77であり、平均スコアは74である。スクラッチプレーヤーの多くはコースレート72から74の難易度の高いトーナメントコースでプレーしており、提出するスコアカード上位半分の平均スコアがコースレートと同じなのである。

ドライビングディスタンスは少なくとも265ヤード必要であるが、それに加えて50%程度のフェアウェイキープ率も必要である。パーオン率はプロゴルファーとさほど変わらず約60%であるため18ホール中11ホールパーオンし7ホールはグリーンを外している。パーオンした11ホール中2ホールはバーディーをとっており、グリーンを外した7ホール中3ホールはアプローチを寄せてパーを拾っている。すなわち、2バーディー2ボギー1ダブルボギー（ロングホール1バーディー・ミドルホール1バーディー1ボギー1ダブルボギー・ショートホール1ボギー）74というスコアが、日々のベンチマークになっている。レギュラープロは、3バーディー1ボギー（ロングホール2バーディー・ミドルホール2バーディー2ボギー・ショートホールオールパー）70でラウンドしている。

ホール毎のスコアを比べるとプロとスクラッチの違いはダブルボギー率である。1ラウンド中にスクラッチはダブルボギーを打っているが、プロは打っていない。また、スクラッチ上位はシニアプロ下位より上回るスコアリングであり、レギュラープロ下位とほぼ同じレベルであると言える。従って、スクラッチがレギュラープロのトーナメントに出場すれば、予選通過は難しいが、シニアプロのトーナメントに出場すれば、予選通過の可能性は高いと思われる。スクラッチは、Par5ではレギュラープロ下位と同じ実力を持っているが、Par3とPar4でレギュラープロより劣っている。Par3とPar4はパーを狙って取れている選手が上位になり、パーが取れずボギーになってしまっている選手が下位になっている。Par5ではバーディーを狙ってしっかり取れている選手が上位になり、下位選手はバーディーを狙うことでパーも逃しボギーになってしまっている。

重回帰分析によると、レギュラーツアーでは獲得賞金に対する影響が強いのは平均ストローク、パーキープ率、バーディー率であるが、シニアツアーとスクラッチではバーディー率、ドライビングディスタンス、フェアウェイキープ率である。共通しているのはバーディー率であり、積極的にバーディーを狙うのは重要である。しかし、スクラッチより下級者（HC1以上）はバーディーを狙うことでボギーになってしまう可能性の方が高いためパーを狙うべきなのかもしれない。シニアツアーやスクラッチでは、ドライビングディスタンスとフェアウェイキープ率が重要である。アンケート結果によるとプロとスクラッチのドライビングディスタンスは共に269ヤードであるがそれ以下のレベルを比べるとカテゴリー毎に10ヤードの差があり、アマチュアのスコアメイクにおいて飛距離は大変重要なファクターとなっている。

アマチュアの技量上達プロセスとして、アベレージからシングルへのマイルストーンは、ドライバーの精度、絶対にOBを打たないマネジメント力である。シングルからハンディ5以下へのマイルストーンは、ウェッジの精度でグリーン脇から確実に寄せられる力である。ハンディ5以下からスクラッチへのマイルストーンは、アイアンの精度であり、グリーンを外さずパーオンする力である。さらに、入れてはいけないゾーン（ピンに寄せられないバンカー等）に入れられない精度やマネジメント力も必要である。スクラッチからプロへのマイルストーンは、パターの精度で高速グリーンでも3パットせず強気かつ繊細なタッチが出せる力である。

第6章 結論

第1章では、研究背景、先行研究および研究目的を述べた。2014年日本ゴルフ協会による全国全コースの統一ハンディキャップ制の導入、2015年問題による団塊世代のゴルフ離れ、2016年リオデジャネイロ五輪からゴルフが正式種目に復活するなど日本ゴルフ界にとって変革を迎える。

本研究は、アマチュアゴルファーの最高峰であるスクラッチプレーヤーの生活環境、ゴルフに対する考え方・流儀、ラウンド環境、練習環境、ゴルフの技量を論理的・科学的に明らかにすることを研究目的とした。

第2章では、インタビュー調査、アンケート調査、データ分析調査の方法などの研究手法を述べた。

第3章では、ゴルファー577人（有効回答459）から得たアンケート調査の結果および70人に対するインタビュー調査結果を示した。アンケート調査では5つのカテゴリー（プロ、スクラッチ、ハンディ5以下、シングル、アベレージ）に分けて分析しカテゴリー別での違いを明らかにした。

第4章では、スクラッチプレーヤーをさらに詳しく分析するために具体的に関東月例競技に出場しているプレーヤーのスコアをホール毎に分析した。また、ラウンド結果から得られるデータを基に重回帰分析などを用いて研究した結果を示した。比較対象としてレギュラープロとシニアプロのデータを用いた。

第5章では、スクラッチプレーヤーの生活環境、ゴルフに対する考え方・流儀、ラウンド環境、練習環境、ゴルフの技量について考察した。

本研究が、アマチュアゴルフ界に対しての理解の深まりに貢献できれば幸いである。

謝辞

本研究を行うにあたり、非常に多くの方々の協力やお力添えのおかげで完成させることが出来ました。関わって下さいました全ての方々に感謝の意を申し上げたいと思います。

執筆の際、指導教員である平田竹男教授には、本稿に対する助言はもちろんのこと、構想段階から研究、そして執筆方法と実に様々な面に至る部分まで親切丁寧にご指導頂き、研究活動を支えて頂きました。平田教授のご指導が無ければ、某上場企業の取締役としての活動と大学院生を同時に行うことは無理だったと思います。平田教授のご指導に心より感謝の意を申し上げます。同様に、違った視点から貴重な助言や示唆をいただいた副査の中村好男教授、間野義之教授、武藤泰明教授、矢本成恒教授にも深く感謝の意を申し上げたいと思います。

そして、平田研究室7期生の皆様、先輩であられる小山武明氏、井上透氏、金子柱憲氏、渡辺明彦氏にも、ご多忙中多大なるご協力を賜りました。心より感謝しております。

また、アンケートに快く協力して下さったプロゴルファー・アマチュアゴルファーの皆様、特にカレドニアンGC研修会・セントラルGC研修会・袖ヶ浦CC研修会に所属するアマチュア競技ゴルファーの皆様には、研修会後のお疲れお急ぎのところ取材に応じていただきまして心より感謝しております。親身になり論文の進捗をチェックいただいた徳永雅洋プロ、斉藤真人プロ、田川雅浩氏には、本当にお世話になりました。

最後に、日本ゴルフ協会の安西孝之会長、渡辺章競技委員、長堀正美広報主事および関東ゴルフ連盟の川崎邦朗委員、岡田光史委員、神奈川県ゴルフ協会、横浜市ゴルフ協会、プロゴルフ協会の根本修一事務局長、日本ゴルフツアー機構の藪内勝仁主任には、多方面でお世話になり大変感謝しております。なお、本文中に登場する先輩諸氏をはじめとする方々の敬称を省略させていただいた非礼をお詫びさせていただきます。

それでは、関わって下さいました全ての方々の今後のご健康とご発展を祈念して、本稿を締めくくらせていただきます。

参考文献

- 日本ゴルフ協会 HP (<http://www.jga.or.jp>)
- 日本ゴルフツアー機構 HP (<http://www.jgto.org>)
- 日本プロゴルフ協会 HP (<http://www.pga.or.jp>)
- USPGA HP (<http://www.pgatour.com>)
- 北海道ゴルフ連盟 HP (<http://www.hga.gr.jp>)
- 東北ゴルフ連盟 HP (<http://www.tga.gr.jp>)
- 関東ゴルフ連盟 HP (<http://www.kga.gr.jp>)
- 中部ゴルフ連盟 HP (<http://www.cga.jp>)
- 関西ゴルフ連盟 HP (<http://www.kgu.gr.jp>)
- 中国ゴルフ連盟 HP (<http://www.cgu.gr.jp>)
- 四国ゴルフ連盟 HP (<http://www.sgu.gr.jp>)
- 九州ゴルフ連盟 HP (<http://www.guk.jp>)
- 各都道府県ゴルフ連盟 HP
- 総務省 HP (<http://www.soumu.go.jp>)
- 日本ゴルフ学会 HP (<http://golf-gakkai.jp>)
- ゴルフダイジェストオンライン HP (<http://www.golfdigest.co.jp>)

付録 アンケート調査用紙

<競技ゴルフに関する意識調査アンケート>

氏名 () 性別 (男 ・ 女) 年齢 (歳)

- < Q1 > ゴルフ歴 (年)
- < Q2 > 競技歴 (年)
- < Q3 > ハンデキャップ ()
- < Q4 > 直近一年間の平均スコア ()
- < Q5 > ベストスコア ()
- < Q6 > 年間ラウンド数 (ラウンド)
- < Q7 > 年間試合数 (試合)
- < Q8 > 月間練習場回数 (回)
1回当たりの練習時間 (時間 分)
1回当たりの打球数 (球)
- < Q9 > ご職業 ☐ 自営 ☐ 経営、管理職 ☐ 専門職 ☐ 事務職 ☐ 医師 ☐ プロゴルファー ☐ その他 ()
- < Q10 > ご年収 ☐ 500万円未満 ☐ 500～1000万円未満 ☐ 1000～2000万円未満 ☐ 2000万円以上
- < Q11 > 1年間に費やす金額(ラウンド、練習) ☐ 100万円未満 ☐ 100～200万円未満 ☐ 200～300万円未満 ☐ 300万円以上
- < Q12 > 1年間に費やす金額(クラブ、ウェア、用具) ☐ 30万円未満 ☐ 30～50万円未満 ☐ 50～100万円未満 ☐ 100万円以上
- < Q13 > ドライバーの平均飛距離 (ヤード)
- < Q14 > 得意クラブ ()
- < Q15 > 競技に出場する魅力 (複数可) ☐ 自分への挑戦 ☐ 緊張感を楽しむ ☐ 技術を学べる ☐ 上手な人とプレイできる ☐ 人脈が広がる
- < Q16 > アマチュア競技出場経験
- | | | | |
|-------------|-------------------------------|----------------------------------|-------------------------------|
| バブルック選手権 | ☐ 経験あり | ☐ 今後出場したい | ☐ 興味ない |
| 日本アマ予選 | ☐ 経験あり | ☐ 今後出場したい | ☐ 興味ない |
| 日本ミッドアマ予選 | ☐ 経験あり | ☐ 今後出場したい | ☐ 興味ない |
| 日本シニアアマ予選 | ☐ 経験あり | ☐ 今後出場したい | ☐ 興味ない |
| 日本オープン予選 | ☐ 経験あり | ☐ 今後出場したい | ☐ 興味ない |
| 日本シニアオープン予選 | ☐ 経験あり | ☐ 今後出場したい | ☐ 興味ない |
| 県アマ予選 | ☐ 経験あり | ☐ 今後出場したい | ☐ 興味ない |
| 社会人アマ予選 | ☐ 経験あり | ☐ 今後出場したい | ☐ 興味ない |
| 日刊アマ予選 | ☐ 経験あり | ☐ 今後出場したい | ☐ 興味ない |
| クラブ選手権 | ☐ 経験あり | ☐ 今後出場したい | ☐ 興味ない |
| クラブ内月例競技 | ☐ 経験あり | ☐ 今後出場したい | ☐ 興味ない |
| クラブ内研修会 | ☐ 経験あり | ☐ 今後出場したい | ☐ 興味ない |
| 全国大会出場 | ☐ 経験あり | ☐ 経験なし | 出場競技名 () |
- < Q17 > プロ競技出場経験
- | | | | |
|-------------|-------------------------------|----------------------------------|-------------------------------|
| プロトーナメント | ☐ 経験あり | ☐ 今後出場したい | ☐ 興味ない |
| チャレンジトーナメント | ☐ 経験あり | ☐ 今後出場したい | ☐ 興味ない |
| 地域オープン競技 | ☐ 経験あり | ☐ 今後出場したい | ☐ 興味ない |
- < Q18 > クラブチャンピオンの経験 ☐ 経験あり ☐ 経験なし クラブ名 ()
- < Q19 > ご覧になっているゴルフ中継 ☐ 日本男子ツアー ☐ 日本女子ツアー ☐ 日本男子シニアツアー
☐ 米男子ツアー ☐ 米女子ツアー ☐ 米男子シニアツアー
- < Q20 > ご自身が50歳になった時(50歳以上の方は今後)
シニアプロゴルファーになりたい ☐ はい ☐ いいえ
アマ資格でプロのシニアツアーに参加したい ☐ はい ☐ いいえ
- < Q21 > シニアプロゴルファーになる方法をご存知ですか? ☐ はい ☐ いいえ
ご存知の場合、障害になるものはありますか? ☐ 時間 ☐ 費用 ☐ ない ☐ その他 ()
- < Q22 > シニアプロツアー本選8試合に参加できるQTがあるとしたら、ツアーQT参加費はいくらまで払えますか?
☐ 10万円未満 ☐ 10万円 ☐ 20万円 ☐ 30万円
- < Q23 > シニアプロツアー本選のアマ予選会があるとしたら、1試合の予選参加費はいくらまで払えますか?
☐ 1万円 ☐ 2万円 ☐ 3万円

- ＜ Q24 ＞ 地域のシニアプロアマ合同競技がありますかご存知ですか？
☐ 参加した ☐ 興味がある ☐ 知っているが興味ない ☐ 知らない
 1試合の予選参加費はいくらまで払えますか？ ☐ 1万円 ☐ 2万円 ☐ 3万円
- ＜ Q25 ＞ 次の中で特に何に興味がありますか？
 (1つお選びください。) ☐ ドライバーの距離 ☐ 正確なアイアン ☐ バッティング ☐ スコアメイク
- ＜ Q26 ＞ あなたにとってゴルフとは何ですか？
 (1つお選びください。) ☐ 生きがい ☐ 特技 ☐ 趣味 ☐ 健康維持 ☐ ストレス解消
- ＜ Q27 ＞ ゴルフを通して仕事(フォーマル)で一番役立っていると思うことは何ですか？
 (1つお選びください。) ☐ 忍耐力 ☐ 積極性 ☐ 堅実性 ☐ 計画性
- ＜ Q28 ＞ あなたは何を求めてゴルフをやっていますか？
 (1つお選びください。) ☐ 爽快感 ☐ 高揚感 ☐ 達成感 ☐ 征服感
- ＜ Q29 ＞ ゴルフで一番大切なことは何だと思いますか？
 (1つお選びください。) ☐ 平常心 ☐ 正直さ ☐ 思いやり ☐ マナー

アマチュアゴルファーの方への質問は以上となります。
 以降は、プロゴルファーの方のみお答え下さい。

- ＜ Q30 ＞ アマ資格のまま、プロツアーに参戦する事をどう思いますか？
☐ 大歓迎 ☐ 歓迎 ☐ 歓迎しない ☐ 反対
- ＜ Q31 ＞ トップアマがシニアプロになる事に対してどう思いますか？
☐ 大歓迎 ☐ 歓迎 ☐ 歓迎しない ☐ 反対
- ＜ Q32 ＞ プロゴルファーになって一番良かった事は何ですか？
☐ 有名になった事 ☐ 買金が稼げた事 ☐ その他()
- ＜ Q33 ＞ プロゴルファーになって一番の不都合は何ですか？
☐ クラブライフが出来ない ☐ 試合数が減った ☐ その他()
- ＜ Q34 ＞ プロアマ合同の地域オープン競技についてどう思いますか？
☐ 大歓迎 ☐ 歓迎 ☐ 歓迎しない ☐ 反対

アンケートにご協力いただきありがとうございました。

早稲田大学大学院 スポーツ学科研究科
 田中 耕介

＜競技ゴルフに関する意識調査アンケート 詳細編＞

氏名 () 性別 (男・女) 年齢 (歳)

< Q1 > 練習について

(1)練習場について

月間の練習場利用回数 (回)

1回当たりの練習時間 (分)

1回当たりの打球数 (球)

内訳 ドライバー (球)

FWウッド (球)

アイアン (球)

ウェッジ (球)

練習場で、特にルーティーンにされていることがあればお聞かせください

•

(2)自宅での練習について

週間のバタ－練習日数 (日)

1日当たりの打球数 (球)

一番重要だと思っているバター練習の距離は？ (m)

ウェッジ等バター以外の練習環境がありますか？ ☐はい ☐いいえ

1日当たりの打球数 (球)

バッテリー練習で、特にルーティーンにされていることがあればお聞かせください

● ● ●

＜ Q2 ＞ ラウンドについて

年間ラウンド数 (ラウンド)

ラウンド時、コースでの練習をお聞かせください

•

＜ Q3 ＞ ゴルフ道とは？

•
•
•

＜ Q4 ＞ ゴルフ人生の目標について

目指しているハンディキャップ ()

最終的に目標を教えてください。

•
•
•

アンケートにご協力いただきありがとうございました。

早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科
田中 耕介

参考図

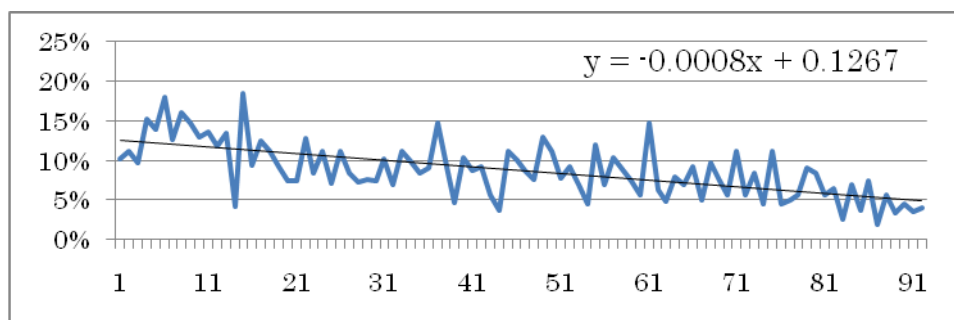


図1 バーディー率 (スクラッチ)

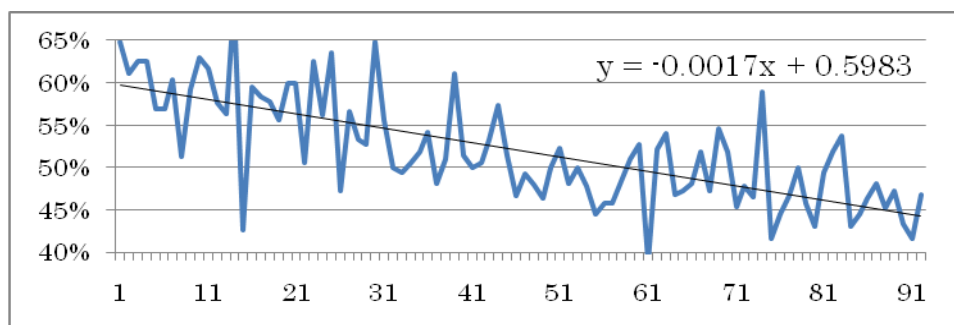


図2 パー率 (スクラッチ)

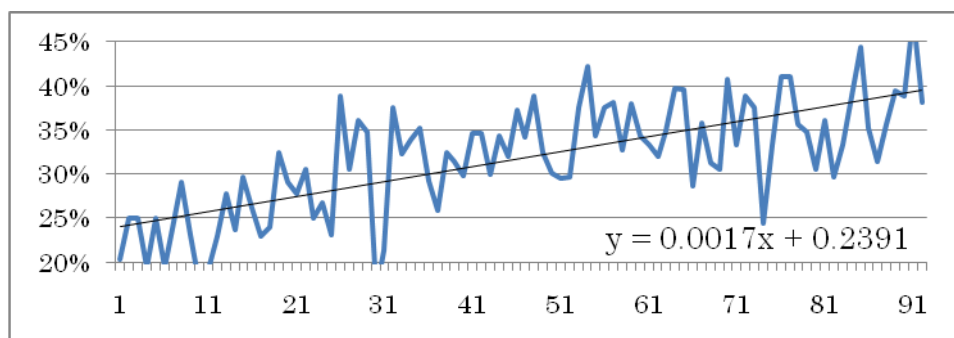


図3 ボギー率 (スクラッチ)

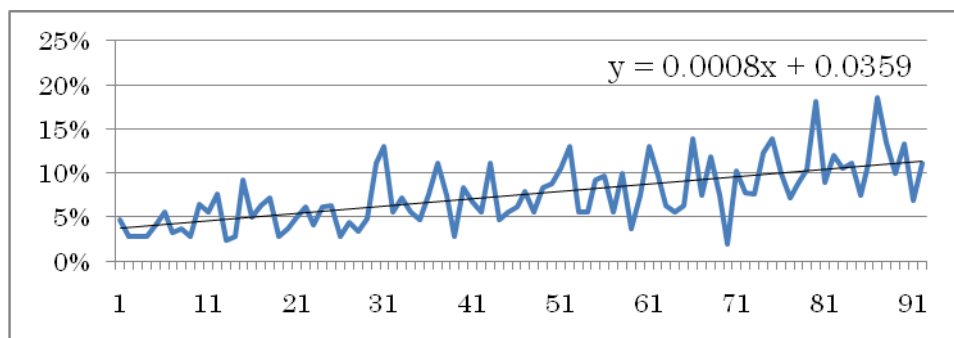


図4 ダブルボギー率 (スクラッチ)

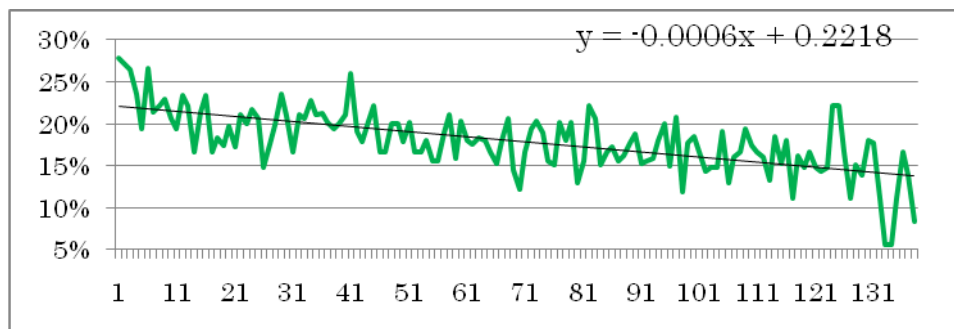


図5 バーディー率 (レギュラープロ)

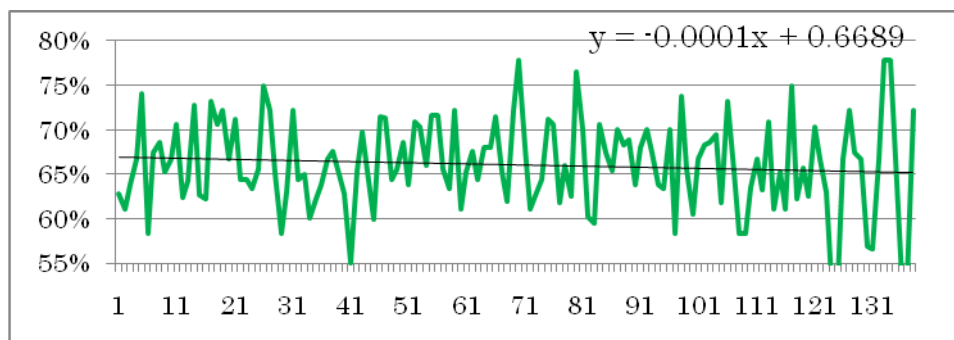


図6 パー率 (レギュラープロ)

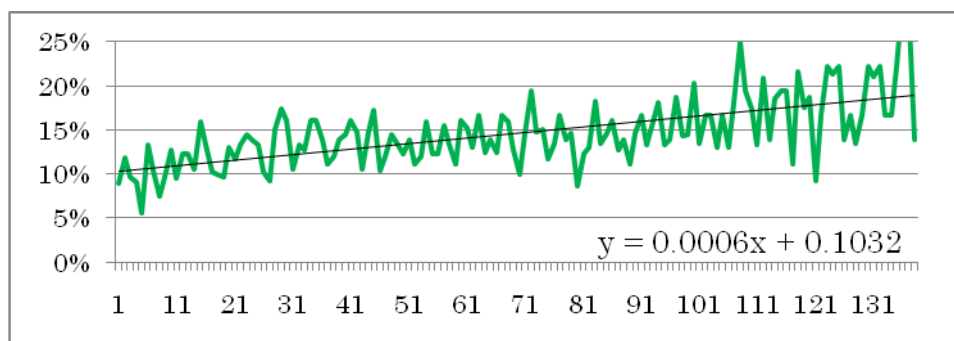


図7 ボギー率 (レギュラープロ)

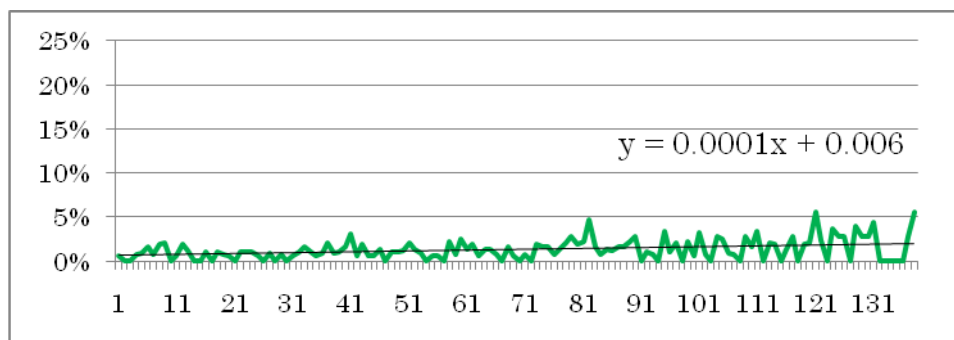


図8 ダブルボギー率 (レギュラープロ)

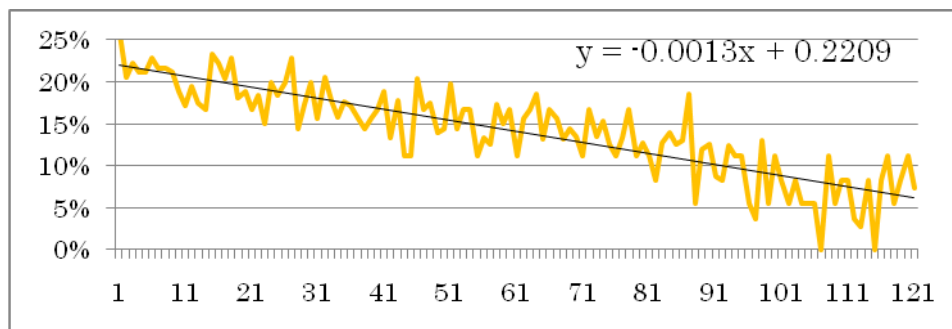


図9 バーディー率 (シニアプロ)

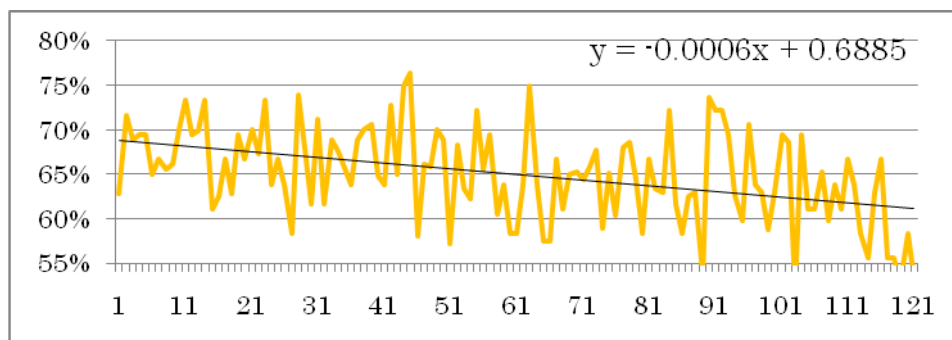


図10 パー率 (シニアプロ)

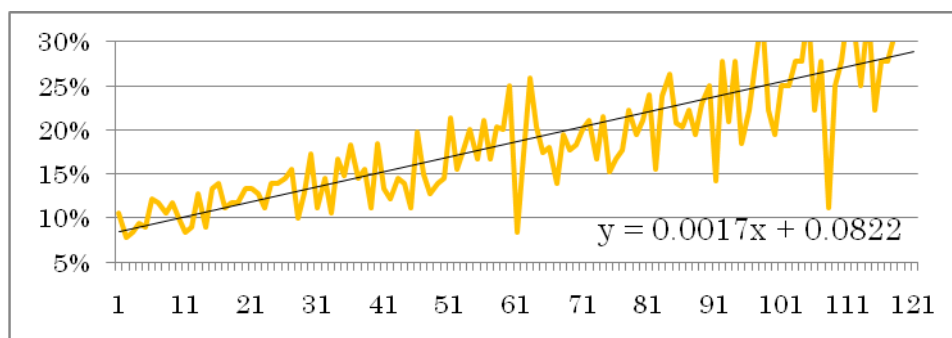


図11 ボギー率 (シニアプロ)

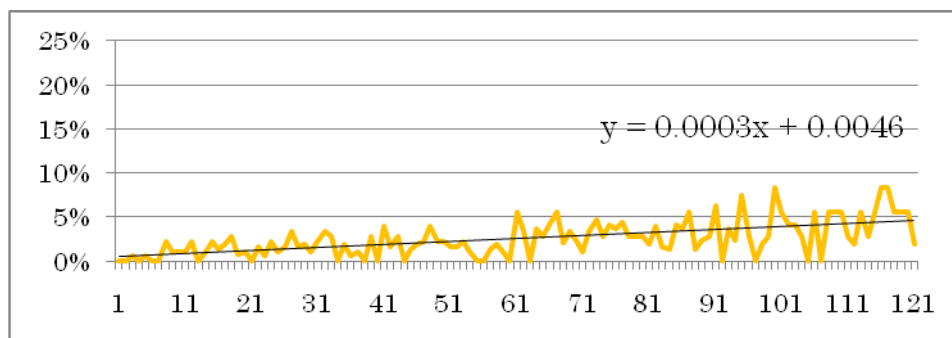


図12 ダブルボギー率 (シニアプロ)

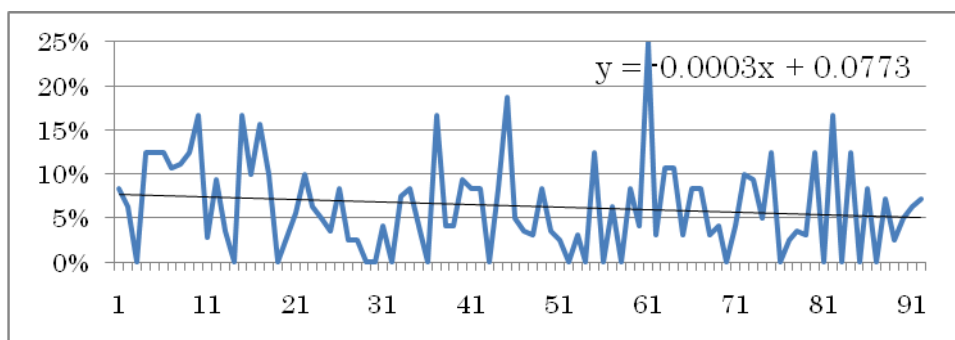


図 1 3 バーディー率<Par 3> (スクラッチ)

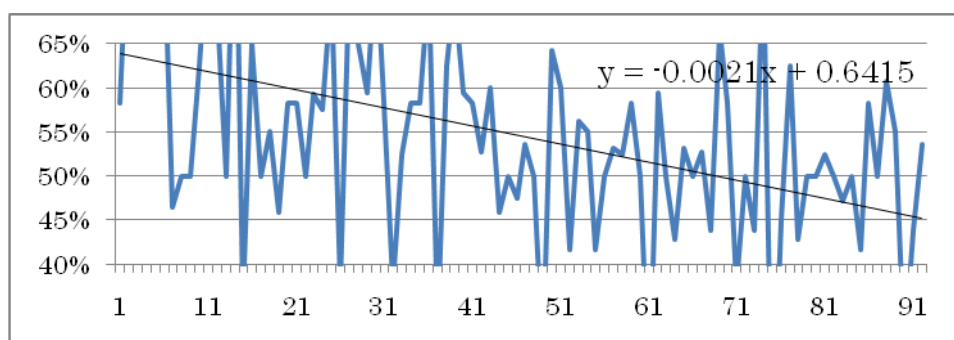


図 1 4 パー率<Par 3> (スクラッチ)

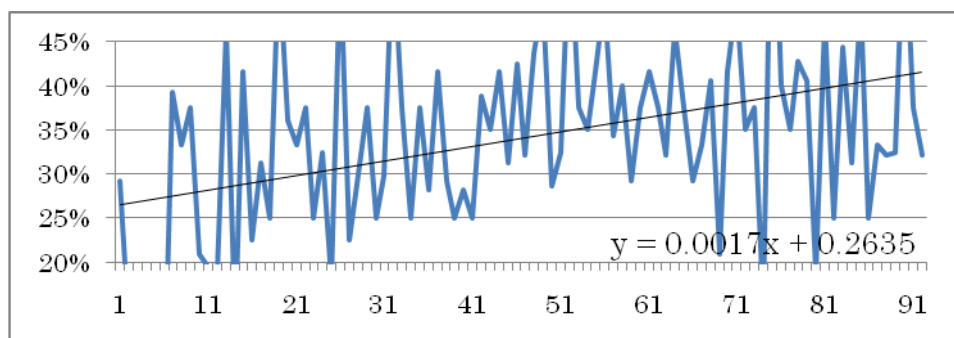


図 1 5 ボギー率<Par 3> (スクラッチ)

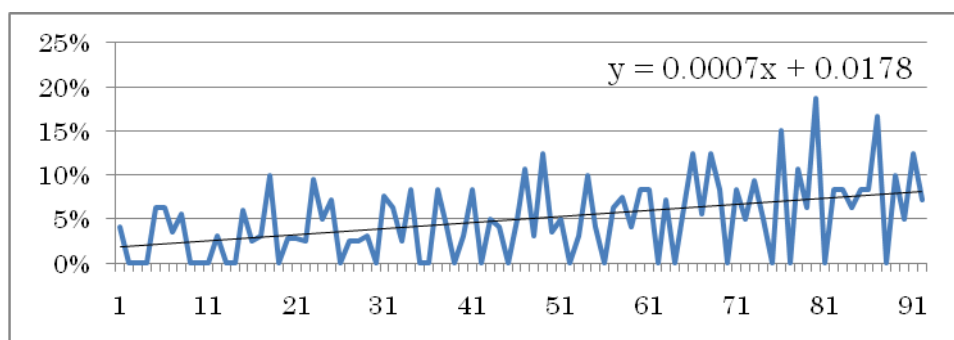


図 1 6 ダブルボギー率<Par 3> (スクラッチ)

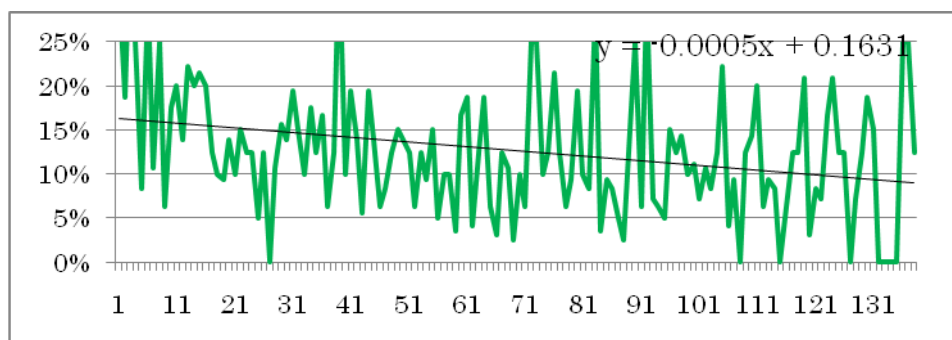


図 1 7 バーディー率<Par 3> (レギュラープロ)

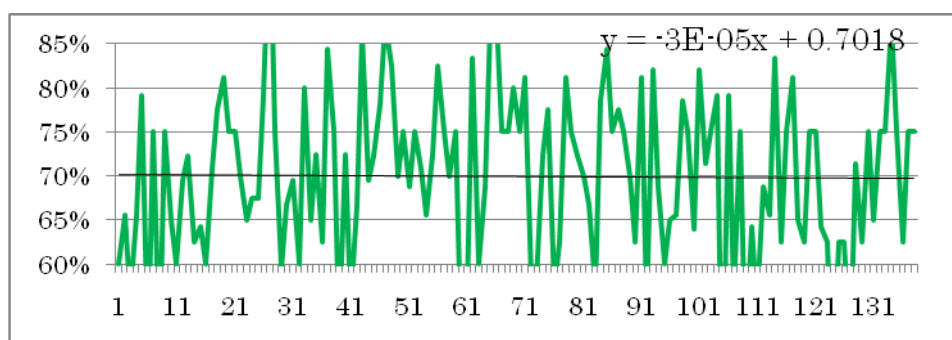


図 1 8 パー率<Par 3> (レギュラープロ)

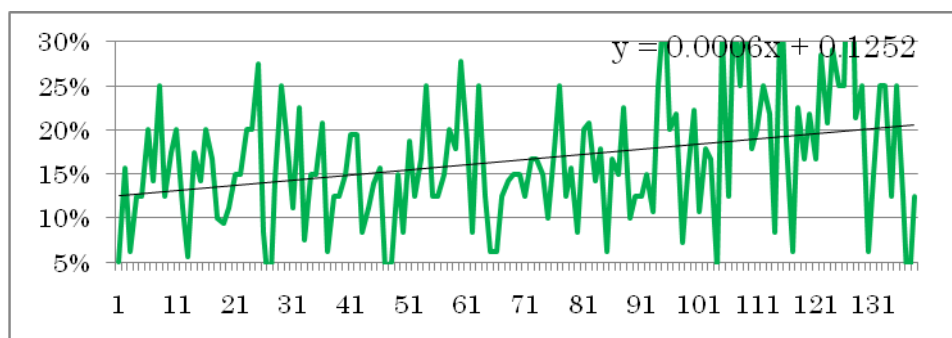


図 1 9 ボギー率<Par 3> (レギュラープロ)

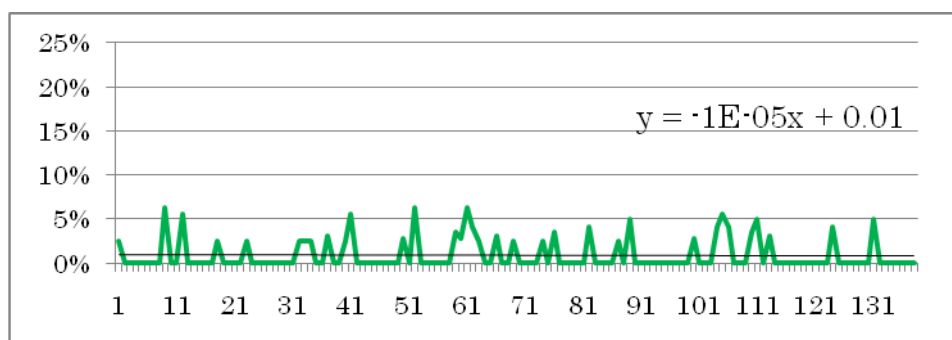


図 2 0 ダブルボギー率<Par 3> (レギュラープロ)

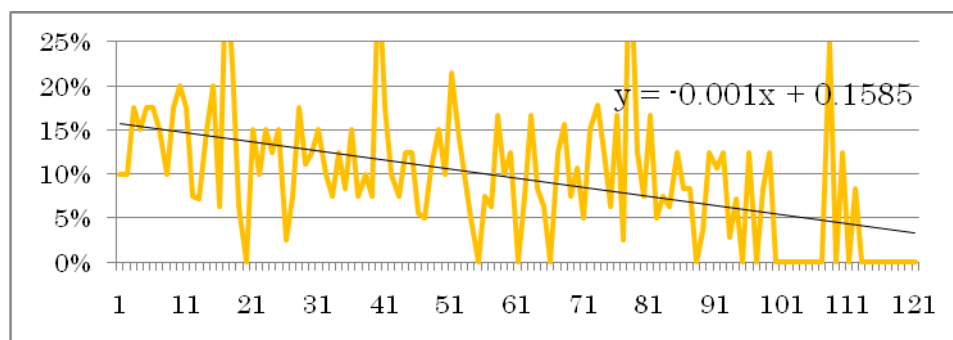


図 2 1 バーディー率<Par 3> (シニアプロ)

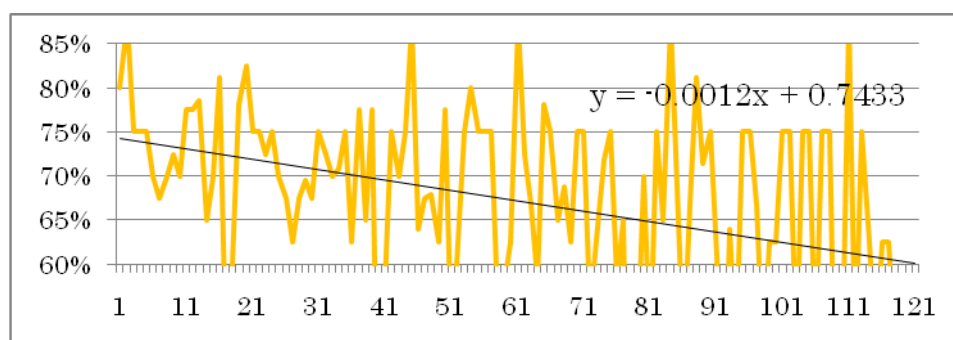


図 2 2 パー率<Par 3> (シニアプロ)

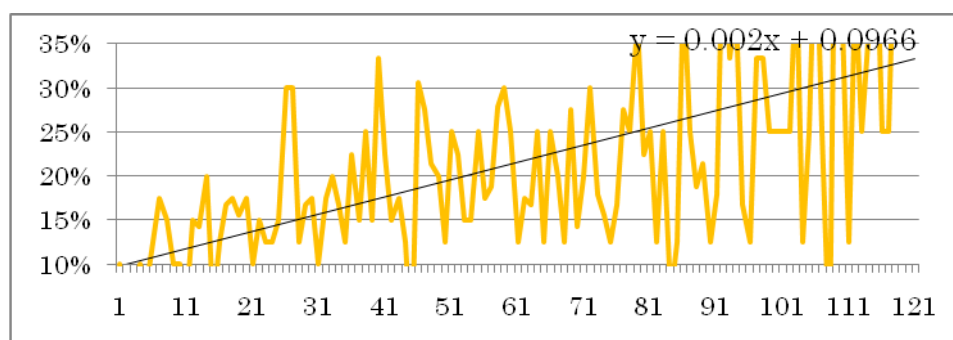


図 2 3 ボギー率<Par 3> (シニアプロ)

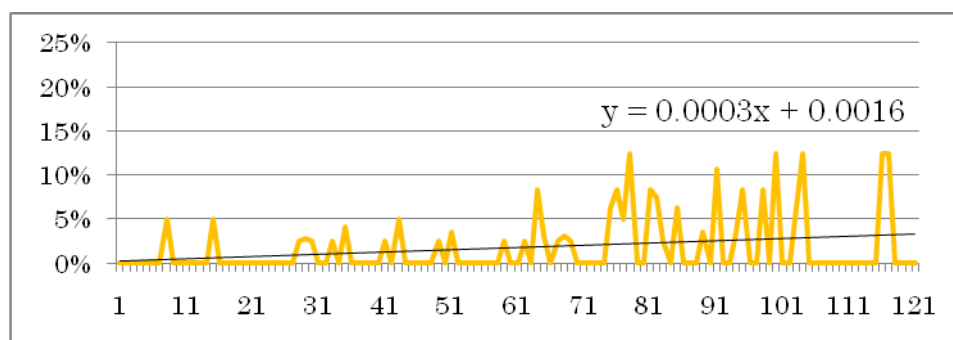


図 2 4 ダブルボギー率<Par 3> (シニアプロ)

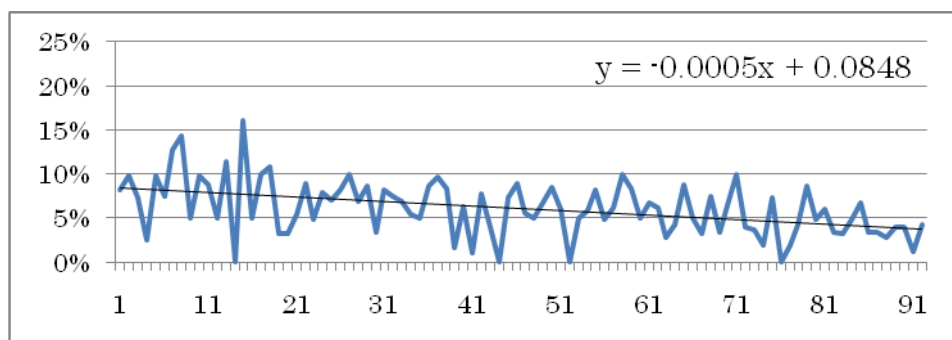


図 2 5 バーディー率<Par 4> (スクラッチ)

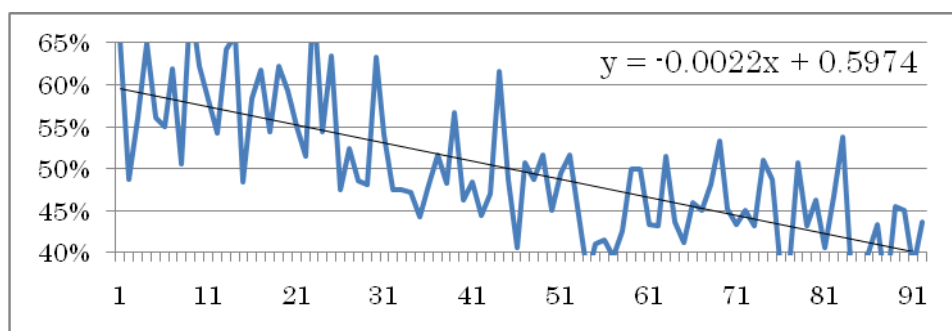


図 2 6 パー率<Par 4> (スクラッチ)

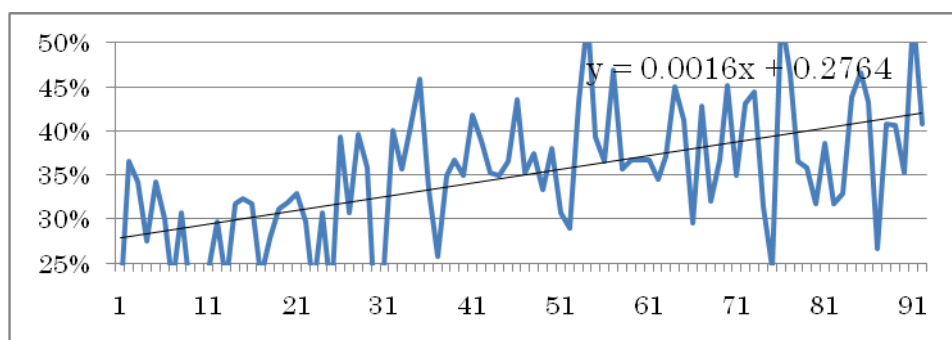


図 2 7 ボギー率<Par 4> (スクラッチ)

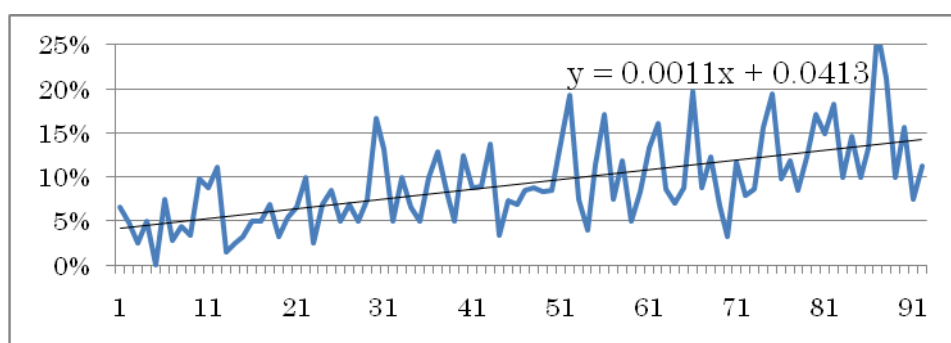


図 2 8 ダブルボギー率<Par 4> (スクラッチ)

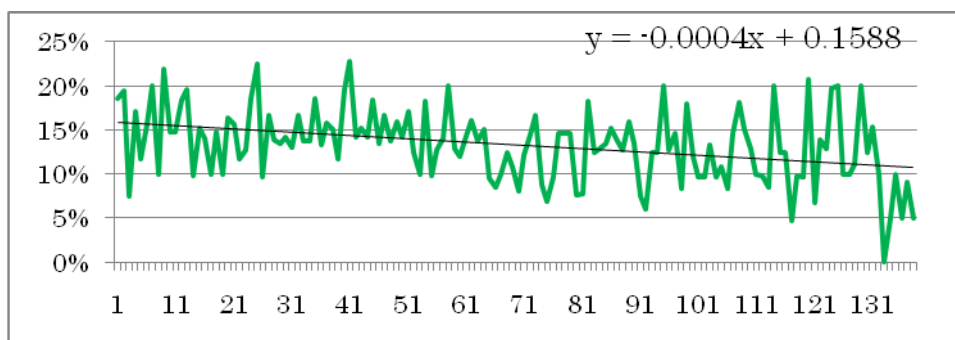


図 2 9 バーディー率<Par 4> (レギュラープロ)

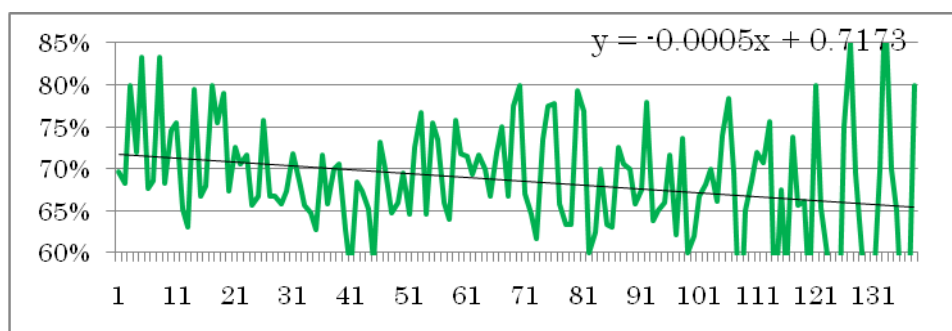


図 3 0 パー率<Par 4> (レギュラープロ)

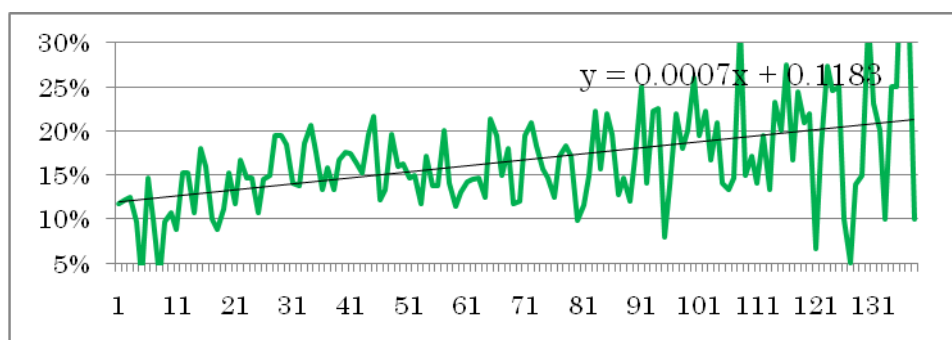


図 3 1 ボギー率<Par 4> (レギュラープロ)

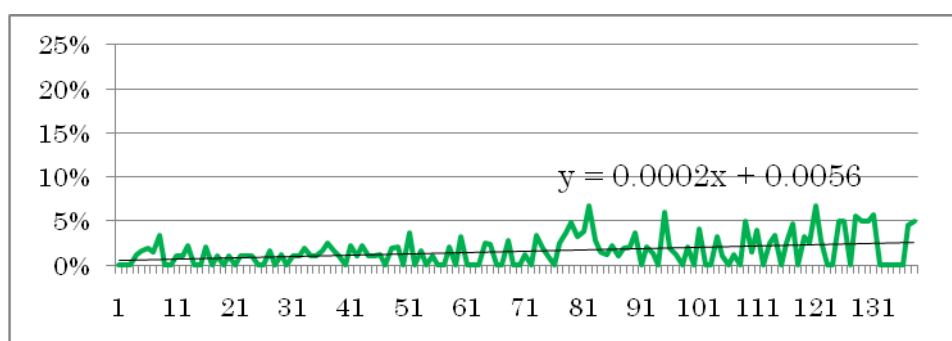


図 3 2 ダブルボギー率<Par 4> (レギュラープロ)

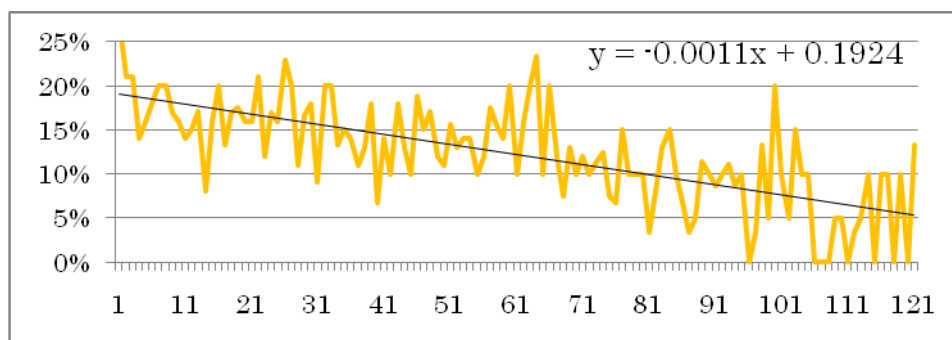


図 3 3 バーディー率<Par 4> (シニアプロ)

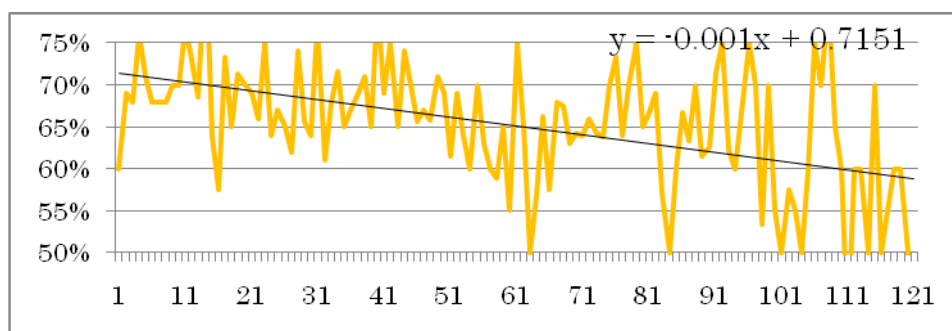


図 3 4 パー率<Par 4> (シニアプロ)

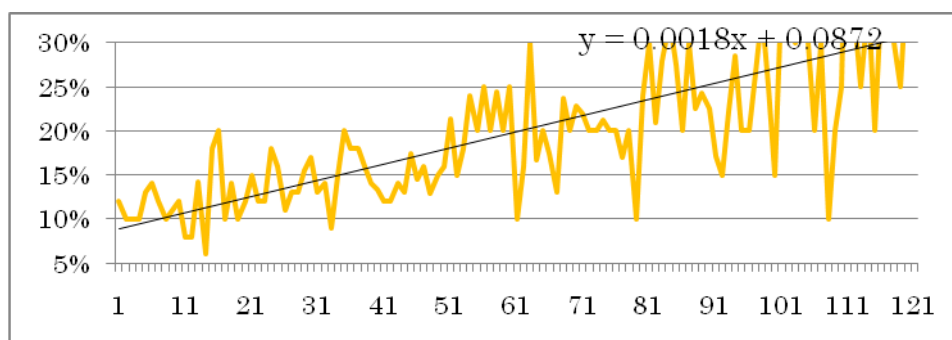


図 3 5 ボギー率<Par 4> (シニアプロ)

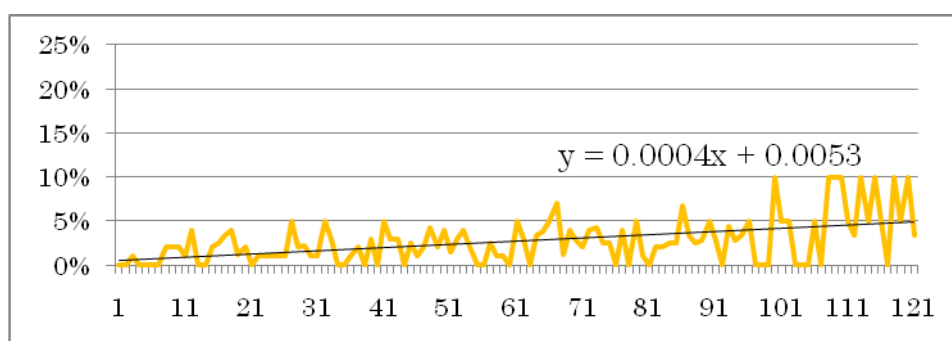


図 3 6 ダブルボギー率<Par 4> (シニアプロ)

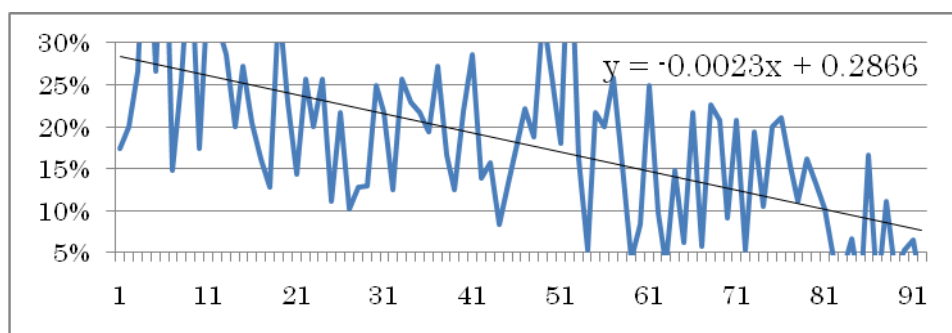


図 3 7 バーディー率<Par 5> (スクラッチ)

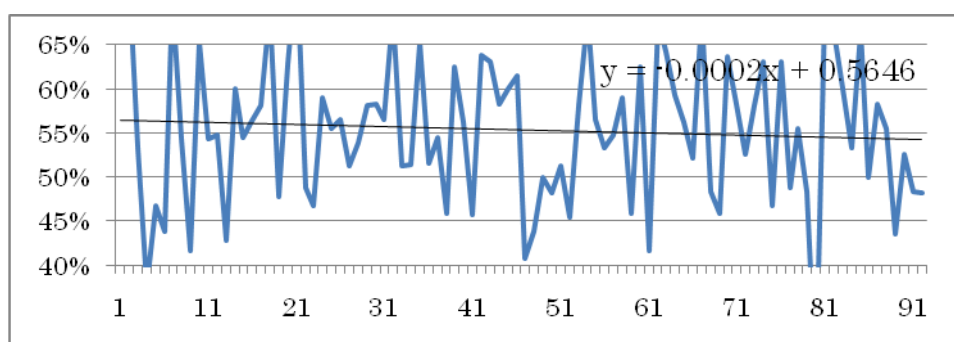


図 3 8 パー率<Par 5> (スクラッチ)

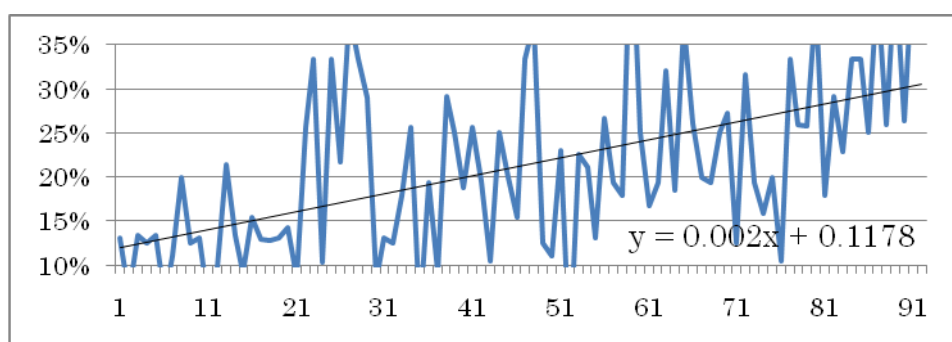


図 3 9 ボギー率<Par 5> (スクラッチ)

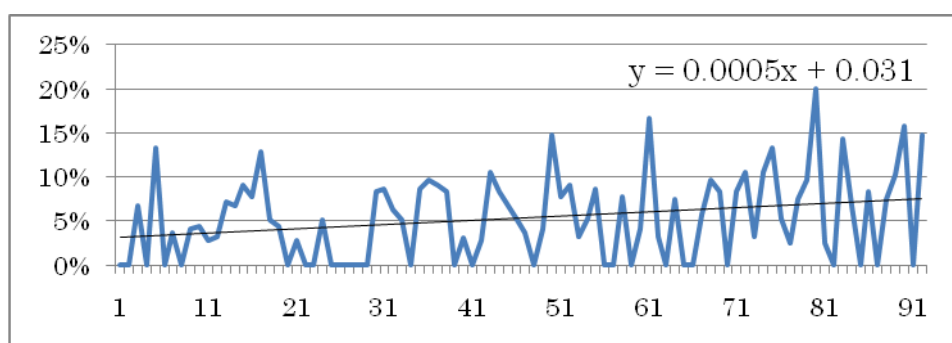


図 4 0 ダブルボギー率<Par 5> (スクラッチ)

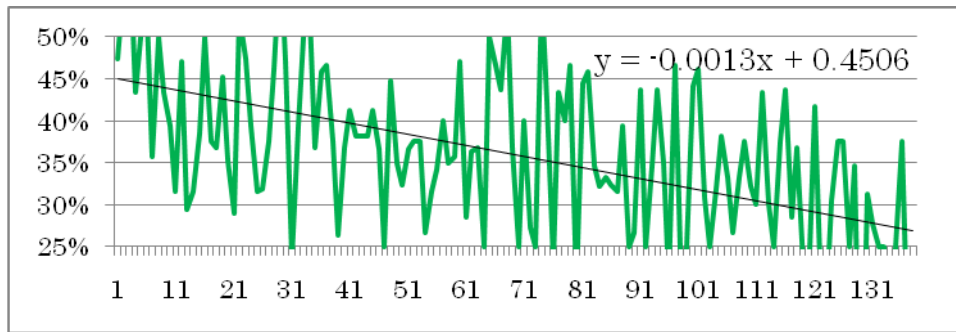


図 4 1 バーディー率<Par 5> (レギュラープロ)

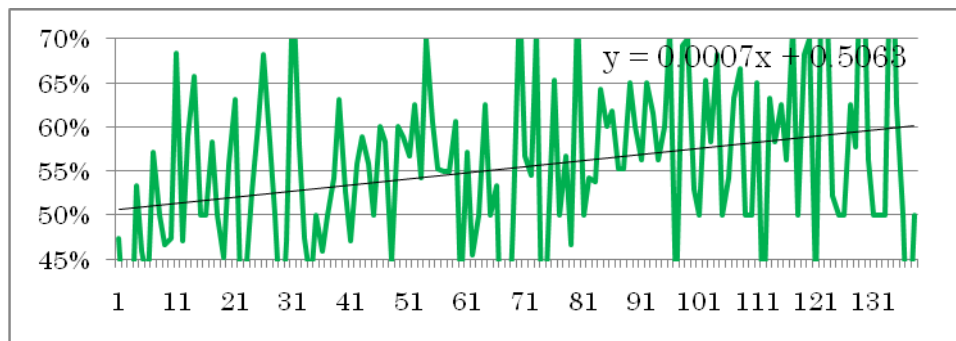


図 4 2 パー率<Par 5> (レギュラープロ)

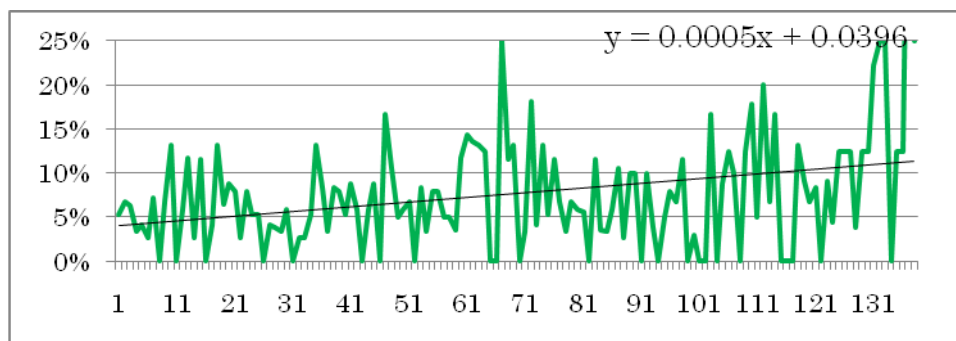


図 4 3 ボギー率<Par 5> (レギュラープロ)

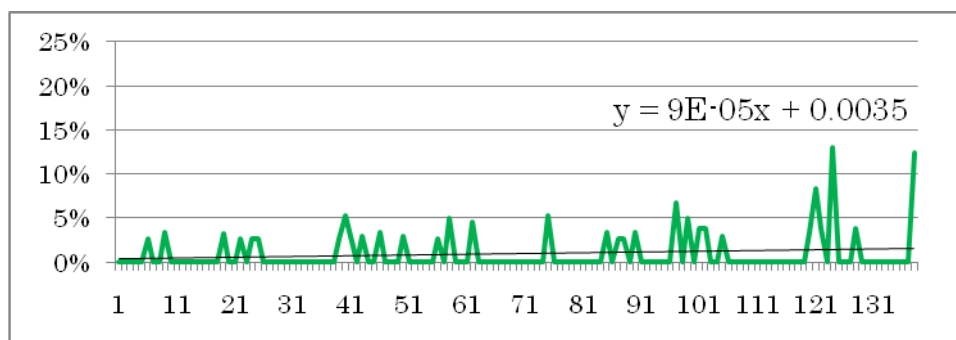


図 4 4 ダブルボギー率<Par 5> (レギュラープロ)

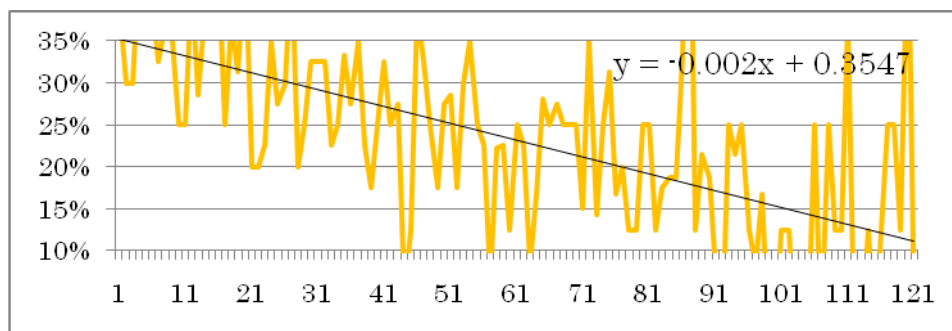


図 4 5 バーディー率<Par 5> (シニアプロ)

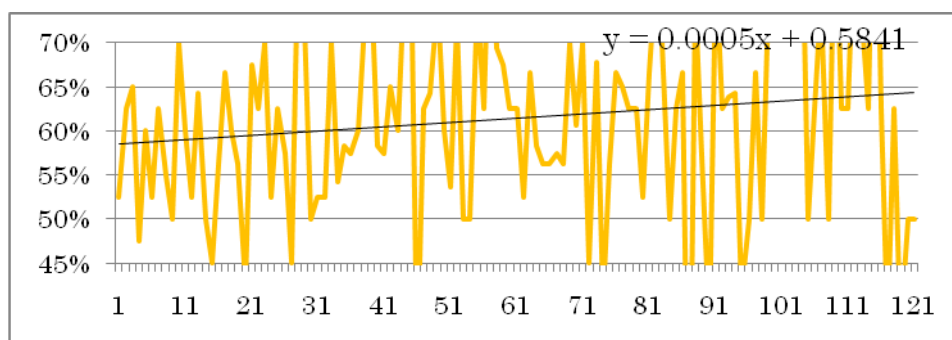


図 4 6 パー率<Par 5> (シニアプロ)

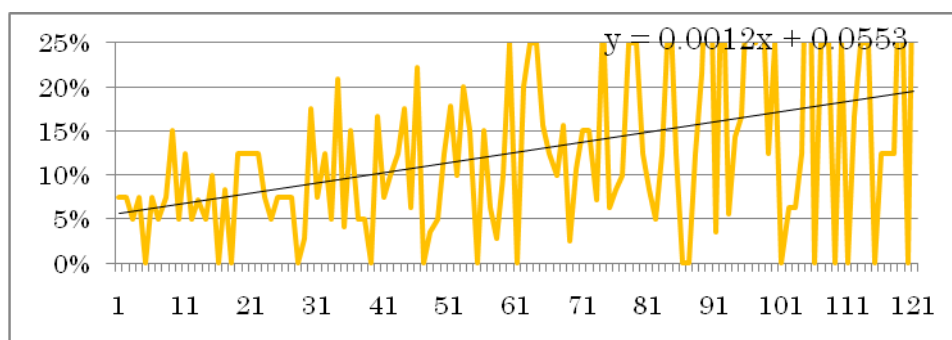


図 4 7 ボギー率<Par 5> (シニアプロ)

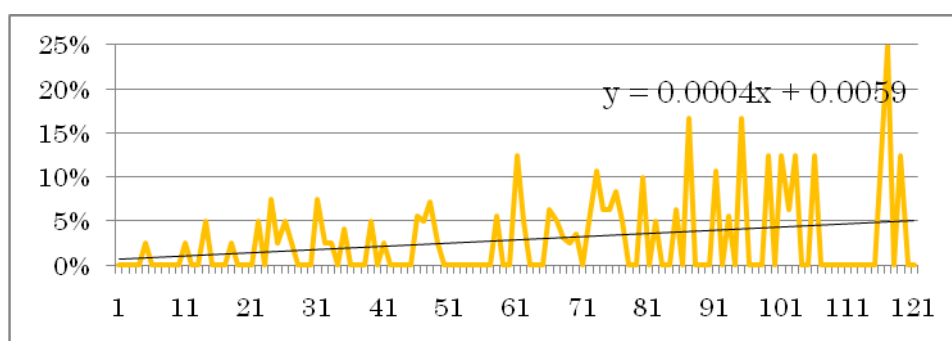


図 4 8 ダブルボギー率<Par 5> (シニアプロ)